

史 跡

上之国勝山館跡 XIV

——平成4年度発掘調査環境整備事業概報——



1993・3

上ノ国町教育委員会

史 跡

上之國勝山館跡 XIV

——平成4年度発掘調査環境整備事業概報——

1993・3

上ノ国町教育委員会

序

史跡上之國勝山館跡環境整備事業は、昭和54年の開始以来14年を経過しました。

この間の調査で百数十年の長期に亘る館の存続と各種の遺構、大量・多様な内容の遺物等を知り得るところとなりました。

私共の町では近い未来に本格的な史跡の整備を希望しており、本年度も館の北西部平坦面での遺構確認調査を実施しました。大型の井戸跡、銅細工の作業場跡などの発見があり、館の中の新しい一面を知ることができました。

勝山館調査研究専門員としてご指導をお願いしている朝尾直弘、網野善彦、石井進、榎森進、仲野浩の諸先生には、これまでの調査をもとにした勝山館跡の検討をはじめていただきました。

年度毎の調査結果に検討を重ね、史跡の整備を確かなものとして参りたいと願うところであります。そしてまた、平成10年開館を目途に計画中の「中世歴史資料館」の構成にも反映させて参りたいと思うところであります。

今年度も事業の実施にあたり、文化庁・北海道教育庁文化課をはじめとする関係機関、諸先生から数多くのご指導と格別のご高配を頂戴することができました。深く感謝申し上げます。

今後もこの事業を継続して推進して参りたく思うところでありますが、なお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成5年3月

北海道檜山郡上ノ国町教育委員会

教育長 和 泉 定 夫

本文目次

序

本文目次／挿図目次／表目次／写真図版目次
例言

I	調査の概要	1
II	遺構確認調査	4
1	調査目的	4
2	検出遺構と出土遺物	4
(1)	位置・概要	4
(2)	層序	4
(3)	段・柱列他	4
(4)	鍛冶・鋳造跡	4
a	焼土・溝・土壌	4
b	出土遺物 銅鋳造関係遺物 鉄製品 陶磁器	4
(5)	竪穴状土壌・井戸跡	24
(6)	掘立柱建物跡	24
(7)	竪穴建物跡、土壌、溝	38
(8)	柵列	44
(9)	遺物	44
III	小括	51
IV	保存処理	53
V	まとめ	53

挿図目次

第1図	遺跡地形図、調査区位置図	2
第2図	調査区範囲図	3
第3図	調査区土層堆積図①	5
第4図	調査区土層堆積図②	9
第5図	調査区遺構配置図	13
第6図	鍛冶・鋳造跡平面図 遺物分布図1(銅鋳造関係)	15
第7図	鍛冶・鋳造跡平面図 遺物分布図2(鉄製品)	18
第8図	鍛冶・鋳造跡平面図 遺物分布図3(陶磁器)	19
第9図	鍛冶・鋳造跡出土遺物他	20
第10図	鍛冶・鋳造跡出土遺物	21
第11図	鍛冶・鋳造跡出土遺物	22
第12図	竪穴状土壌1平面図	23
第13図	竪穴状土壌・井戸出土遺物	24
第14図	井戸跡平面図	25

第15図	第1号建物跡想定図	27
第16図	第2号建物跡想定図	29
第17図	第3号建物跡想定図	31
第18図	第4号建物跡想定図	32
第19図	第5号建物跡想定図	33
第20図	第6号建物跡想定図	34
第21図	第7号建物跡想定図	35
第22図	第8号建物跡想定図	36
第23図	第9号建物跡想定図	37
第24図	第40、41、42号竪穴遺構平面図	39
第25図	第45号竪穴遺構平面図	41
第26図	第43、44、46、47号竪穴遺構平面図	42
第27図	竪穴遺構出土遺物	43
第28図	土壌7、9平面図他	45
第29図	土壌13、14、17平面図他	46
第30図	土壌18、20、31、42平面図他	47
第31図	土壌・柱穴出土遺物	49
第32図	調査区出土遺物	50

表目次

表1	鍛冶・鋳造跡出土遺物集計表(鍛冶・ 鋳造関連遺物、銅・鉄製品他)	17
表2	鍛冶・鋳造跡出土陶磁器集計表	22
表3	出土遺物集計表(陶磁器)	52
表4	出土遺物集計表(鉄製品他)	52

附図 調査区遺構配置図

写真図版目次

PL. 1	遺跡遠景・遺構検出状況
PL. 2	遺構検出状況他
PL. 3	遺構調査状況
PL. 4	段・柱・礎石列他
PL. 5	鍛冶・鋳造跡
PL. 6	鍛冶・鋳造跡
PL. 7	竪穴状土壌・井戸跡
PL. 8	井戸・土壌跡
PL. 9	遺構検出状況
PL. 10	遺構検出状況
PL. 11	遺構検出状況
PL. 12	遺構検出状況
PL. 13	遺構検出状況(土層堆積)
PL. 14	柵列跡

例

- 1 本書は史跡上之國勝山館跡の平成4年度発掘調査及び環境整備事業について概要をまとめたものである。
- 2 本年度の発掘調査は次の体制でのぞんだ。
調査主体者 上ノ国町教育委員会
教育長 和泉定夫
指導 上ノ国町文化財保護審議会特別委員
北海道大学教授 足達富士夫、文化学院
講師 鈴木亘
勝山館跡調査研究専門員 山形大学教授
仲野浩、東北学院大学教授 榎森進、国
立歴史民俗博物館長 石井進、神奈川大
学短期大学部教授 網野善彦、京都大学
教授 朝尾直弘

主管 上ノ国町教育委員会文化課 課長 関
登志夫、主事 笹浪甲衛

勝山館跡修景技術員（上ノ国町建設課長）山
崎重任

発掘担当者 学芸員 松崎水穂

調査員 学芸員 斉藤邦典

調査補助員 山崎洋子 笠谷奈智子 竹内江
美子、荒木志伸 伊藤瑞恵 加藤厚子 杉
村春恵 南部みどり 平松左枝子（お茶の
水女子大学）

作業員 浅原すみ 川合冴子 木村洋子 杉
村八重子 薄田百合子 鈴木千春 住吉春
子 竹内正章 出村喜作 長尾咲子 南部
谷緑 沼沢国枝 野崎睦子 八田揚子 松
本清 南谷澄子 佐藤恵利子

- 3 本書の編集は松崎、斉藤が協議の上松崎が行った。

本書の作成はI、遺物観察・集計表を山崎、
IVを斉藤、他を松崎の分担で行った。

言

- 4 挿図の作成は担当者の指示により、補助員作業員が行った。挿図中の方位は真北を示す。
- 5 土層の土色は「新版標準土色帖」（農林水産技術会議事務局）を、遺物の色調名は「標準色彩図表A」（日本色研事業株式会社）を用い、目測で比定した。
- 6 調査にあたっては次の関係機関と各位に多大な御指導と御援助を賜った。

文化庁記念物課 田中哲雄 加藤允彦 服部英雄 増淵徹 井上和人 西田健彦 北海道教育庁文化課 中村福彦 木村尚俊 種市幸生 大沼忠春 桧山教育局 牧野義則 伊賀治康 北海道大学 天野哲也 専修大学北海道短期大学 俵浩三 函館大学 坂田聡 弘前大学 斉藤利男 東京都立大学 峰岸純夫 昭和女子大学 平井聖 明治大学 矢島國雄 横浜市立大学 今谷明 名古屋大学 小谷凱宜 京都造形芸術大学 内田俊秀 大阪市立大学 河音能平 東洋文庫 渡辺兼庸 国立歴史民俗博物館 吉岡康暢 東京国立博物館 原田一敏 今井敦 国立民族学博物館 大塚和義 北海道開拓記念館 山田悟郎 小林行雄 帯広百年記念館 内田裕一 江戸東京博物館 斉藤慎一 ミュージアム知覧 上田耕 青森県教育庁文化課 上野茂樹 東京都埋蔵文化財センター 松崎元樹 小樽市教育委員会 石川直幸 秋田城跡調査事務所 小松正夫 松前町教育委員会 久保泰 八雲町教育委員会 三浦孝一 柴田信一 木古内町教育委員会 菅野文二 三上英則 木元豊 乙部町教育委員会 森広樹 今金町教育委員会 寺崎康史 浪岡町 工藤清泰 中里町教育委員会 斉藤淳 三春町教育委員会、仲田茂司、半沢紀

I 調査の概要

1 調査

勝山館の主体部は三段の平坦面から形成されている。自然の谷と前後の空壕、柵列等によって囲まれた平坦面に建物が建てられている。

第一平坦面は正面空壕の真上の台地で約5,000㎡。二段目の平坦面は約7,000㎡。台地が狭まる第三平坦面は約3,500㎡である。

本年度の調査は一昨年、昨年に続き最も広い第二平坦面の北西部分約1,100㎡を実施した。

調査は5月25日～12月3日まで行った。調査方法は従来通り20m×20mの大グリッドを分割した4m×4mの小グリッド方式とした。又建物の概要を知るため柱穴配置略図1/40を作成し柱穴間の重複、覆土の状態を観察しながら柱穴を掘り下げた。尚焼土、土壌等は半裁しセクション図作成後掘り下げ土壌のサンプリングを行った。遺物取上げはI、II層は4m×4mのグリッドを4分割し、2m×2m毎の一括取り上げ方式とした。遺構面であるIII層は実測図を作成後、レベルを附して取り上げた。遺物取上げは主に縮尺1/40の平板実測、1/10、1/20その他による平板及び遣り方測量とした。

5月 調査区内グリッド設定、表土除去、(17M21、18M6、11、16)部分試掘、18M1区で砂利面確認。

6月 発掘予定区全面の表土除去作業を終える。17N25、18N5、17M21、18M1区で広範囲に砂利が分布し、主に鉄等の遺物の多いことが明らかになる。柱穴、土壌その他の遺構が検出される。柱穴配置略図作成。東西に3本のトレンチ、(17M25、18M5、10、15)、(17L21、18L1、6、11)(17L22、18L2、7、12)を入れ併せて土層観察実測を行う。

7月 大型土壌が三基検出されるが上部に多量の礫が詰る土壌②は井戸跡と判る。

8月 井戸跡が深さ5m弱となりローソクで酸素状態を確認しながらの作業となる。8月24日お茶の水女子大生3名発掘協力のため来町。24日～29日迄作業に加わる。8月29日井戸跡完掘、深さ約5m50cm。8月31日お茶の水女子大生第2陣3名(8月31～9月5日)来町。

9月 堅穴No.40～45まで検出。堅穴45には大量の炭化材がみられ、焼失倒壊したものと推される。

10月 堅穴45焼失炭化材の残存状態が良く、保存処理のための前段処理を行う。

堅穴46、47、溝1～17、土壌1～41検出。うち土壌31は径約100cm×深さ130cmとやや大型で今年度5個の類例をみる。10月26日土壌31をセクション実測後掘り下げたところ曲物が玉砂利の上に据えられる。井筒か？

11月 堅穴45の炭化材取上げ、土壌42～55検出。各堅穴より実測開始。11月12日発掘区全景写真撮影。11月29日実測、レベルング作業終える。

12月3日 埋戻し、用具点検、遺物、土壌サンプル等の運搬を終え終了。

2. 基本層序

I層 表土層、10YR3/3暗褐～10YR4/4褐シルト。草根多量。やや密。

II層 館廃絶後の自然堆積層。10YR3/3暗褐～10YR4/4褐シルト。やや密。炭化物、Os-aの混入。細分される。Os-a純層も含まれる。

III層 館機能時の整地盛土層。10YR4/4褐～10YR5/8黄褐。密、ソフトローム粒、炭化物等多量に含有する。細分される。

IV a層 縄文期以後より館が機能する直前までの自然堆積層。黒、シルト～7.5YR3/3暗褐、シルト。従来までのIV b層はIV a-1としIV a層の中を含めた。

IV b層 10YR6/6明黄褐色火山灰。やや密。

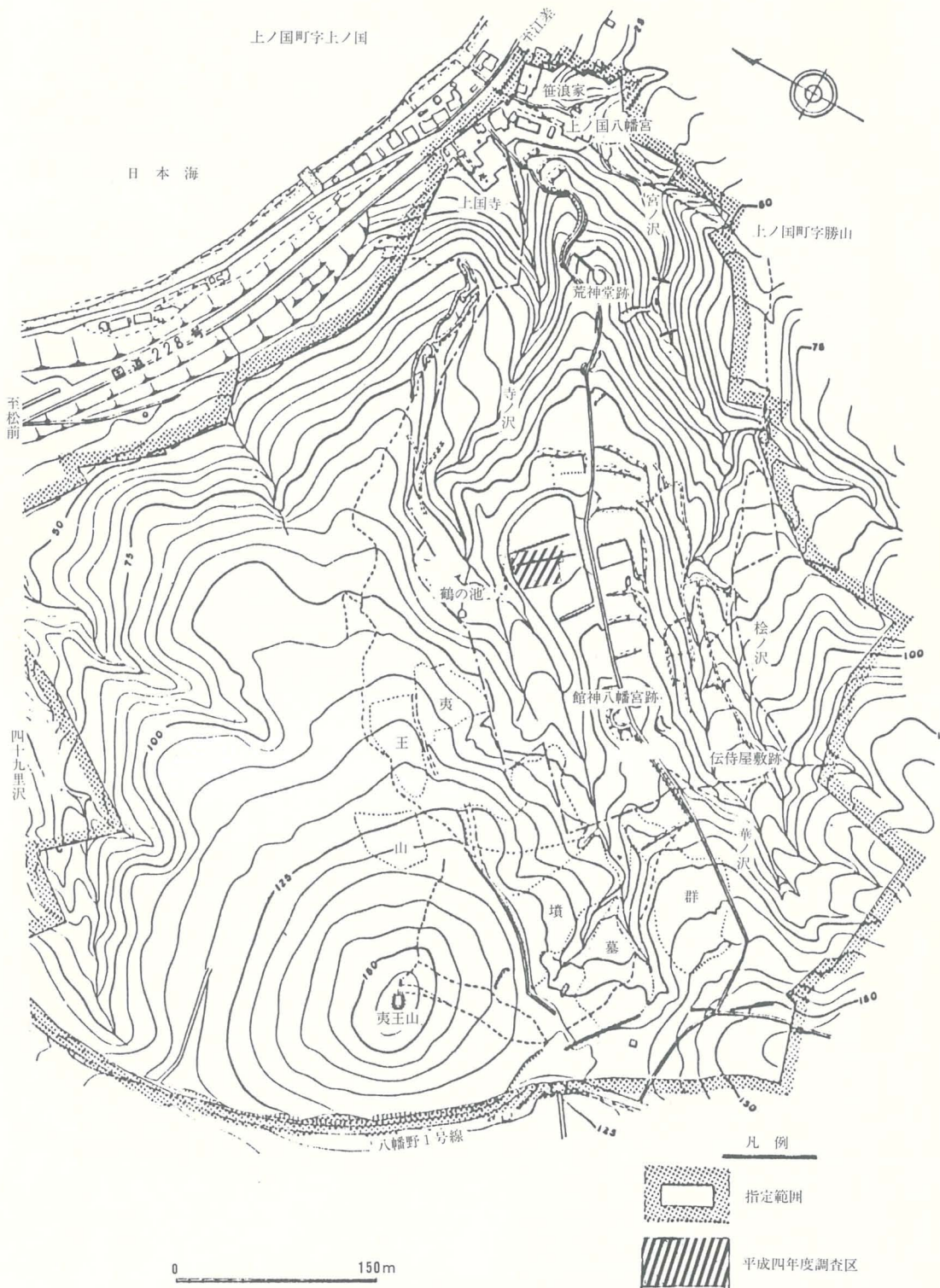
IV c層 縄文期包含層。10YR4/6褐、シルト、やや密。

V層 10YR5/4にぶい黄褐～10YR5/6黄褐、ソフトローム。

VI層 ハードローム。

3. 保存処理

勝山館出土木製品等の保存処理を行った。



第1図 遺跡地形図、調査区位置図



第2図 調査区範囲図

II 遺構確認調査

1 調査目的

平成3年度の調査によって“客殿”とも推される大型の建物跡が見つかったが、その敷地(地割)の南西界は調査区外と推され、建物規模等も一部曖昧なままとなった、この為今年度はこの大型建物跡の構えられる地割の範囲とその内部の構成、それに隣接する地割とそこでの建物構成その他を知ることを目的として調査を開始した。

2 検出遺構と出土遺物

(1) 位置・概要

平成4年度は前年度に引続き第二平坦面のうち館の主体部中央を縦貫する自然研究路(旧御代参道路)の北西中央部1,100㎡を調査の対象とした。北東は前年度調査区、南東は昭和55年度調査区に連続し、一部重複する。

調査区北東部で南東～北西方向の段とそれに併行する柱列が見られ、前年度調査区の建物跡が立つ敷地(地割)の境界と推された。この地割内からは銅鑄造を主とした(銅細工)作業場跡、堅穴状土壇、井戸跡等が見つかった。段・柵列の上、(南西側)に6区画程の地割面と一部それに跨り、8棟の掘立柱の建物跡、堅穴建物跡10基、土壇55基、地割を画する溝、掘立柱建物の柱穴等を検出した。又台地北西端には溝に柱を立てた柵列が前年度調査区から続いて検出された。

(2) 層序

遺構の形成等を把握るべく調査区に縦横して土層観察面を設定し記録した(第3、4図)。又遺構は確認した時点で土層観察面を設け記録することとした。

(3) 段、柱列他

調査区北東部に南東～北西方向に0.2～0.8mの段差があり、段上南東半に5個の平な石からなる礎石列、その南西に中間に折れを持つ柱列が並ぶ。礎石列は6.6尺等間3.5間が検出できた(PL4-2)。最北西部の礎石は井戸跡の肩にかかる為井戸の掘り上げ時には取りはずした(PL4-1)。この礎石列に平行して焼土、炭化材が見られ(同一2)だが、その下位で上述の柱列の一部をなす柱穴が見つかっている。柱列は6.6尺等間で井戸を中心に南東へ6間、北西へ10.5間連続し、両者間は5.9尺

の距離をもって直角に折れる。又やや北西よりの段直上に6個の石が踏み石状に並べられている。この段が前年度調査区に続く地割を画する段と推される。

(4) 鍛冶、鑄造跡(第6～8図)

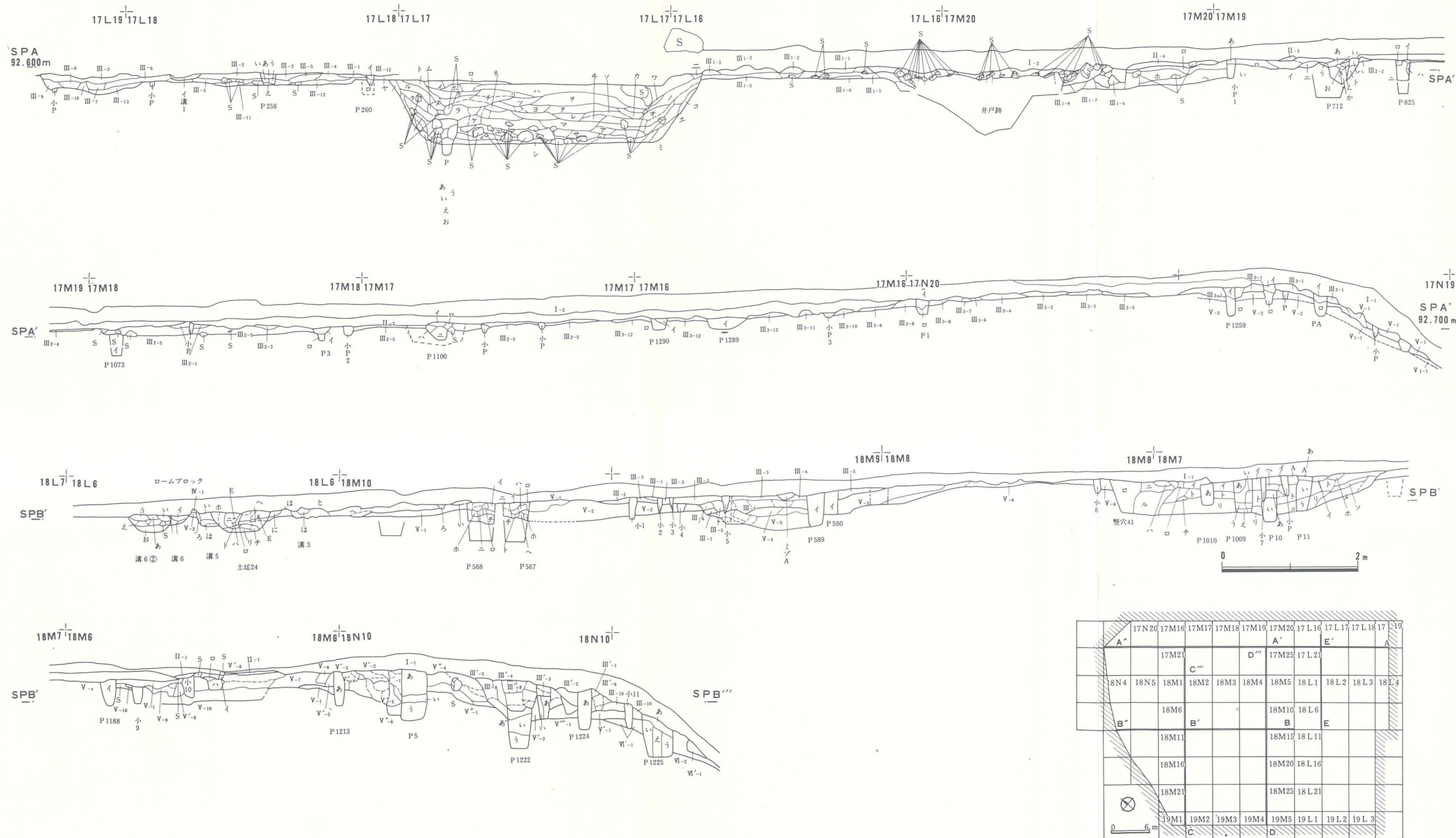
a 焼土・溝・土壇

調査区北の隅18N5区周辺、段の直下に6×5m程のL字形の低い一段があり、5×6m程の範囲に径2cm内外の小石(砂利)が10～20cm前後の厚さで推積している。その中央南北方向に焼土層がみられ、北西寄り等に焼失材と思われる炭化物があった。砂利層の下位には先の段に沿った小柱穴、礎石かと推される扁平な石、踏石状の集石等が見られたが建物跡としてのまとまりは把握できなかった。砂利除去後の下面精査で土壇9と浅い溝が確認された。なお中央焼土層には炭化物等も含まれるが、砂利面下での赤変等は顕著ではない。

この一画で羽口、るつぼ、銅地金、八双金物他の銅製品、釘、小札他の鉄製品、陶磁器等が出土した。各々の出土位置はほぼ砂利層中に含まれ、層位的には区別することは難しく平面的な広がりもほぼ同じ様相を示している(第6～8図)。

b 出土遺物

銅鑄造関係遺物(第9図)：1は粘土製羽口。長軸10.5cm程、先端部径4×4.2cm、基部6.4×6.5cmと基部の開く円筒形でほぼ中央に同じく1.6×1.7、1.8×1.9cmで中間部がやや細くなる空気孔が穿たれる。先端平面部は熱変溶出し、気泡を生じている。基部平面は平滑に調整され、空気孔周囲が僅かに隆起する。体部は出土時下位の(地面に接していた)側面が暗灰褐色を呈し、上位が明るい膚色である。この上下に対する一側面に巾2.5、長さ5.5cm程の灰黒色の発色が見られる。体部は先端から2～3cm程の四周が熱変し、一部発泡しているが、上下が側方より幾分広く熱変し、気泡も多い。又基部を下に垂直にすると先端は下位側が0.5cm弱短い。側面基部直近に赤褐色の付着物が見られる。胎土に小石を噛む。2、3はるつぼである。2は径8cm、器壁1.1cmで口唇と底部中央は厚くなる、胎土に砂粒が含まれ、6×2cm前後の靱痕が数個みられる。内面口端まで赤褐・黒

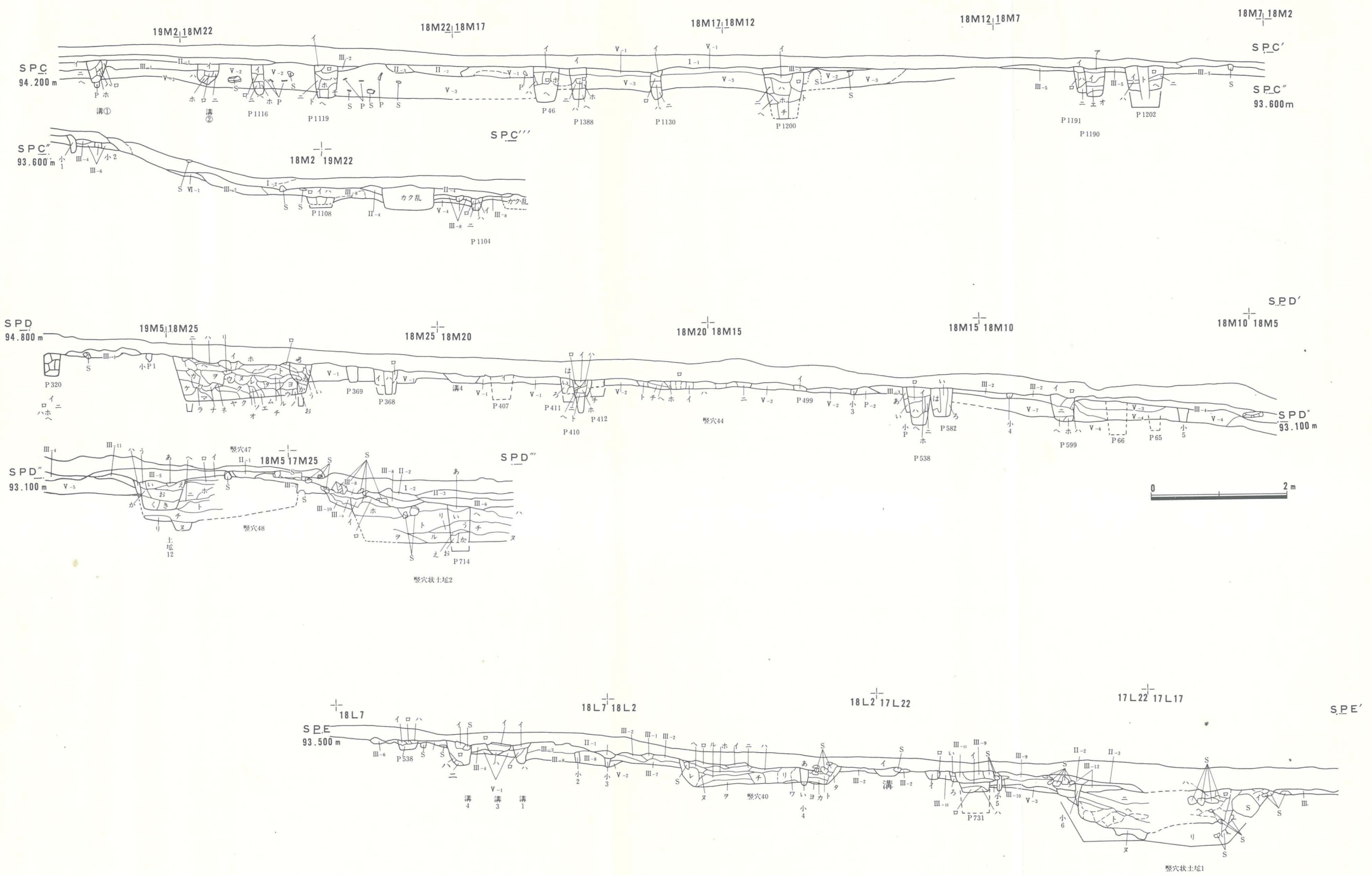


第3図 調査区土層堆積図①

第3図SPA-A'' (17L19~17N19) 南北ライン西壁土層

I-1	10Y R 5/6 黄褐	礫粒	ローム粒	C 焼土粒	
2	5/6 黄褐	〃	〃	〃	玉砂利基盤礫
II-1	5/6 黄褐、にぶい黄褐	〃	〃	〃	〃
2	5/6 黄褐、暗褐	〃	〃	〃	砂利 火山灰少量
3	5/6 にぶい黄褐	C 砂利	火山灰多量	少しサラサラしている	
4	5/6 暗褐	〃	小礫	火山灰60%	
5	5/6 褐	〃	焼土粒微量	小礫	粗
6	5/6 暗褐	〃	焼土粒	粗	
III-1	10Y R 5/6 にぶい黄褐	礫粒	焼土粒	C少量	火山灰
2	5/6 褐	〃	〃	〃	基盤礫 ややハード
3	5/6 〃	〃	〃	C少量	〃
4	5/6 黄褐	〃	〃	〃	火山灰
5	5/6 褐	〃	焼土粒	C少量	〃
6	5/6 〃	〃	〃	〃	基盤礫 〃少量
7	5/6 〃	〃	〃	〃	基盤礫
8	5/6 〃	〃	〃	〃	焼土粒基盤礫
9	5/6 〃	〃	〃	〃	<III 8> よりややハード
10	5/6 〃	〃	〃	〃	焼土粒微量 (III 8) よりややハード
11	5/6 〃、暗褐	〃	〃	〃	ローム少量
12	5/6 〃	〃	〃	〃	C少量 火山灰
13	5/6 黄褐	〃	〃	〃	〃
III-1	5/6 褐	C	玉砂利 土器	基盤礫20%	
2	〃	〃	〃	〃	小礫2~3コ
3	5/6 黄褐	〃	〃	〃	〃
4	5/6 褐	〃	〃	〃	〃
5	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
6	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
7	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
8	10Y R 5/6 褐	C	ローム粒 玉砂利 土器	基盤礫	湿性あり
9	5/6 暗褐	C	微量	基盤礫	湿性あり
III2-1	5/6 褐、暗褐	基盤礫	焼土粒	C少量	ロームブロック ややハード
2	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
3	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
4	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
5	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
III3-1	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
2	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
3	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
4	5/6 暗褐	〃	〃	〃	〃
5	5/6 褐	〃	〃	〃	〃
6	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
7	5/6 にぶい黄褐	〃	〃	〃	〃
8	5/6 暗褐	〃	〃	〃	〃
9	5/6 褐	〃	〃	〃	〃
10	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
11	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
12	5/6 〃	〃	〃	〃	〃

V-1	10Y R 5/6 褐	粘質まじり	ロームブロック	湿つてやや団子状	やや粗
2	5/6 黄褐	〃	〃	〃	〃
VI-1	5/6 褐	C	焼土粒	全面粘土	ハード
土塚56	イ 5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
チ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
リ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ハ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ニ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ホ	5/6 〃	〃	〃	〃	〃
ヘ	5/6 〃	〃	〃	〃	



第4図 調査区土層堆積図②

第4図 SPC~C'' (19M2~17M22) 東西ライン北壁土層

Table with columns for sample ID (e.g., I-1, II-1, III-1), soil type (e.g., 10YR, 5Y), and soil composition (e.g., 褐, 黄褐, 暗褐, 微量, 焼土粒, 火山灰, 砂利).

SPD~D''' (19M5~17M25) 東西ライン北壁土層

Table with columns for sample ID (e.g., I-1, II-1, III-1), soil type (e.g., 10YR, 5Y), and soil composition (e.g., 褐, 黄褐, 暗褐, 微量, 焼土粒, 火山灰, 砂利).

P499 イ

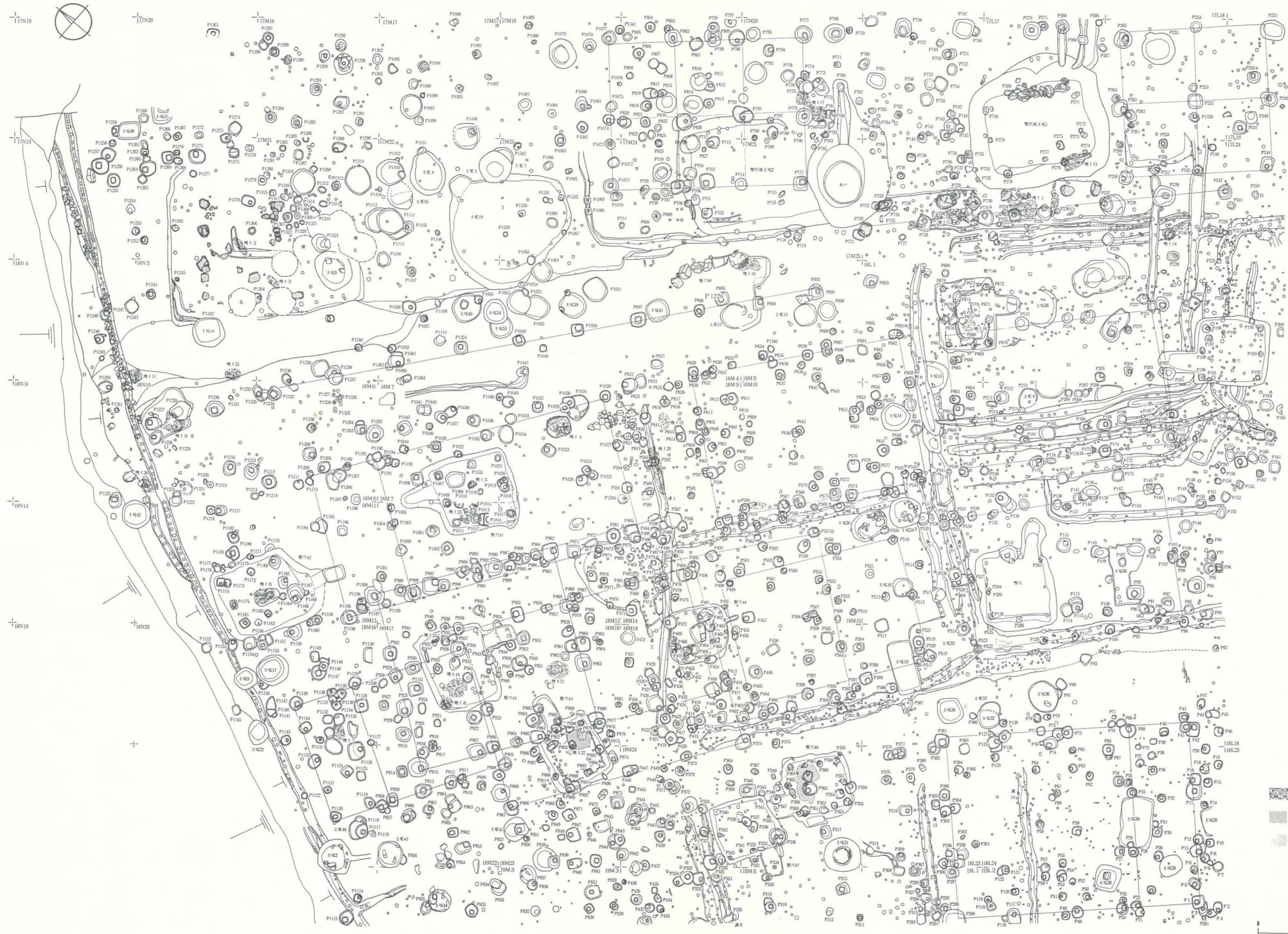
Table with columns for sample ID (e.g., P499, P538, P582), soil type (e.g., 10YR, 5Y), and soil composition (e.g., 褐, 黄褐, 暗褐, 微量, 焼土粒, 火山灰, 砂利).

SPE~E' (18L7・2~17L22) 東西ライン北壁土層

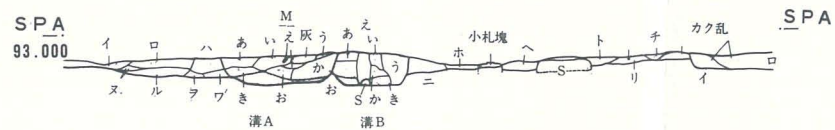
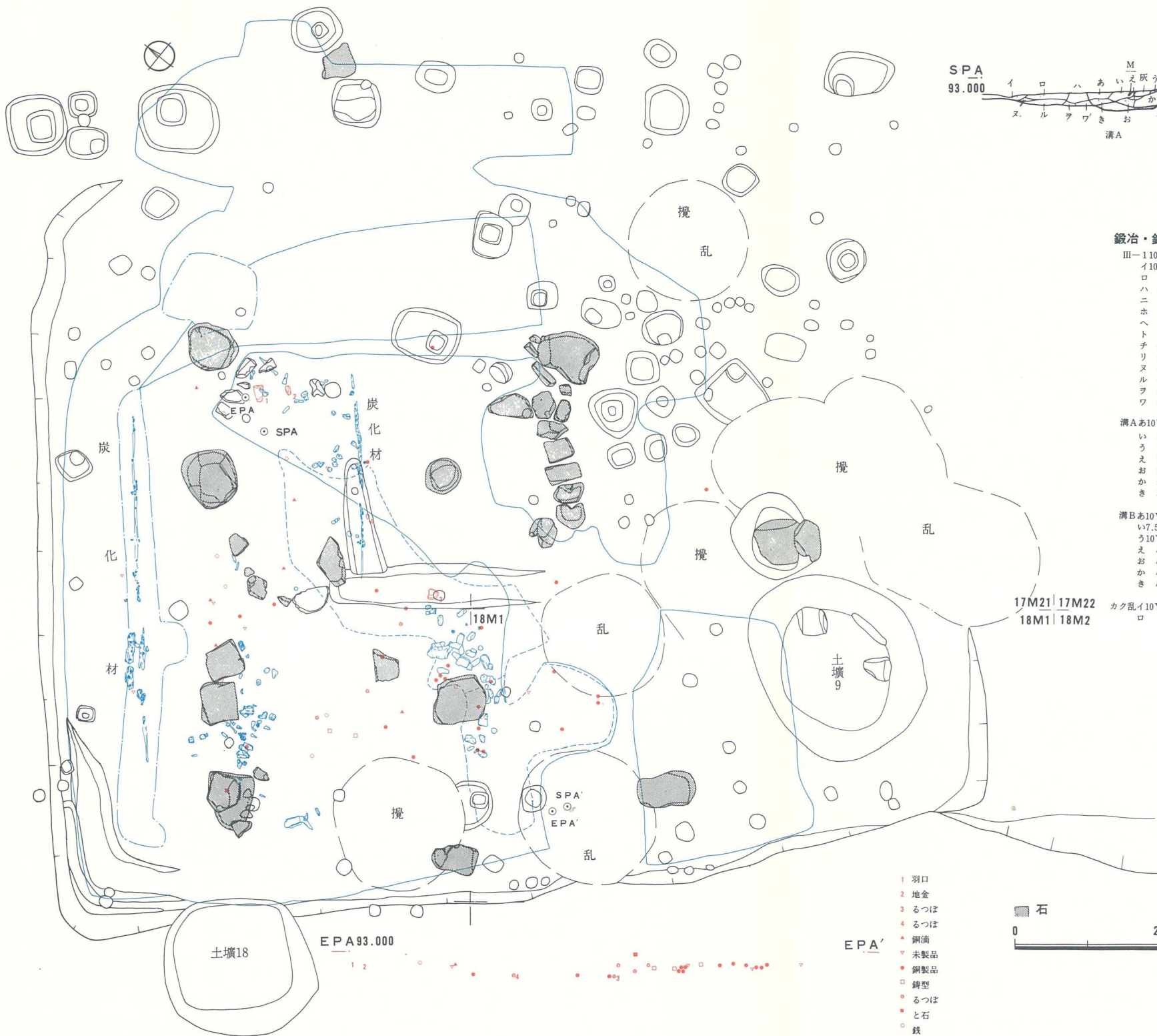
Table with columns for sample ID (e.g., I-1, II-1, III-1), soil type (e.g., 10YR, 5Y), and soil composition (e.g., 褐, 黄褐, 暗褐, 微量, 焼土粒, 火山灰, 砂利).

堅穴状土1イ10YR

Table with columns for sample ID (e.g., 1イ, 2イ, 3イ), soil type (e.g., 10YR), and soil composition (e.g., 黄褐, 暗褐, 微量, 焼土粒, 火山灰).



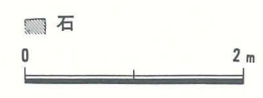
第5図 調査区遺構配置図



鍛冶・鑄造跡土層 (SPA—SPA')

III-1 10YR 4/6 褐	ローム粒 砂利 全面ローム 焼土粒微
イ 10YR 4/6 褐	ローム粒 焼土粒 C 砂利少量
ロ // 4/6 黄褐	ローム粒 焼土粒 砂利多量
ハ // 4/6 黄褐	ローム粒 C 焼土粒レキ粒 (あ)より炭が多い
ニ // 4/6 //	ローム粒多い 焼土粒 C レキ粒 砂利ハード
ホ // 4/6 暗褐	ローム粒 焼土粒 C
へ // 4/6 褐	ロームブロック レキ粒 C 焼土粒 (ホ)よりハード
ト // 4/6 黄褐	ロームブロック C 焼土粒 表面炭痕 錆化鉄固着
チ // 4/6 褐	ローム粒 C 焼土粒少量 砂利
リ // 4/6 //	// // // 火山灰 (チ)よりロームが多い
ヌ // 4/6 //	// // // 砂利 (ロ)よりソフト
ル // 4/6 //	焼土粒 C ソフト
ヲ // 4/6 6 褐	// // // 砂利やや多い
ワ // 4/6 //	// // // ハード
溝A あ 10YR 4/6 褐	ローム粒 焼土粒 C 砂利少量 しまりがあってややハード
い // // //	// // // (あ)よりソフト
う // 4/6 6 //	// // // Cが多い
え // // //	// // // 砂利、ロームが多くねばりがある
お // 4/6 //	// // // ハード
か // 4/6 6 //	ロームブロックが(え)より多い
き // // //	ローム粒 焼土粒 C 砂利 (え)よりソフト
溝B あ 10YR 4/6 褐	ローム粒 焼土粒 C レキ粒 (ロ)よりソフト
い 7.5YR 4/6 //	// // // 砂利 焼骨粉 ややソフト
う 10YR 4/6 6 //	// // // ややハード
え // 4/6 暗褐	ローム粒 焼土粒 C ソフト
お // 4/6 褐	焼土粒 C ソフト
か // 4/6 //	ローム粒 焼土粒 C 砂利 (お)よりソフト
き // 4/6 暗褐	// // // (あ)より粘性あり
カク乱 イ 10YR 4/6 褐	ローム粒が混じりしまっている
ロ 褐	ローム粒 レキ粒 砂利少量

- 1 羽口
- 2 地金
- 3 るつぼ
- 4 るつぼ
- △ 銅滴
- ▽ 未製品
- 銅製品
- 鋳型
- るつぼ
- と石
- 鉄



— 砂利層分布範囲
 --- 焼土層分布範囲

第6図 鍛冶・鑄造跡平面図 遺物分布図1(銅鑄造関係)

灰・薄緑色等の溶解物が付着し、発泡・ひび割れが見られる。底面は刷毛目状の整形痕が残る。底部中央2.5×3cmの部分は表面が溶け、発泡が顕著である。3はやや小振りで底部中央が平になるようである。胎土に砂粒を含む。発泡その他熱変の痕等は見られない。図示していない他の4片の内1点には熱変等が見られないが他の3片は発泡等が見られる。4は鋳型と推される。外径10.5cm程と推される円形で上部へ細く窄む。接地面の巾は2cmで平滑に整えられている。内面平滑で、接地面の1.5cm程上部から内反し肉厚となる。外面に溝状の挟りが3条程ある。胎土は粉っぽいが爽雑物は見られない。他に小石や繊維などの爽雑物の多い熱で赤変した粘土塊がある。一部に面取りが見られ、炉壁の一部かとも推したが、鋳型とも思われる。7は57×27.5×12mmの銅地金である。97.3gを計る。形状は字義通りのナマコ形を呈し、上面及び一側面に5～9ミリ巾の面が不規則に残り、整形時の痕跡かと推される。一部亀裂を生じている。8は銅釘で未使用品である。9は八双金物である。薄板が弯曲して凸面状をなす。七子地に菊?の折枝を配する。10、11は鞋である。13、

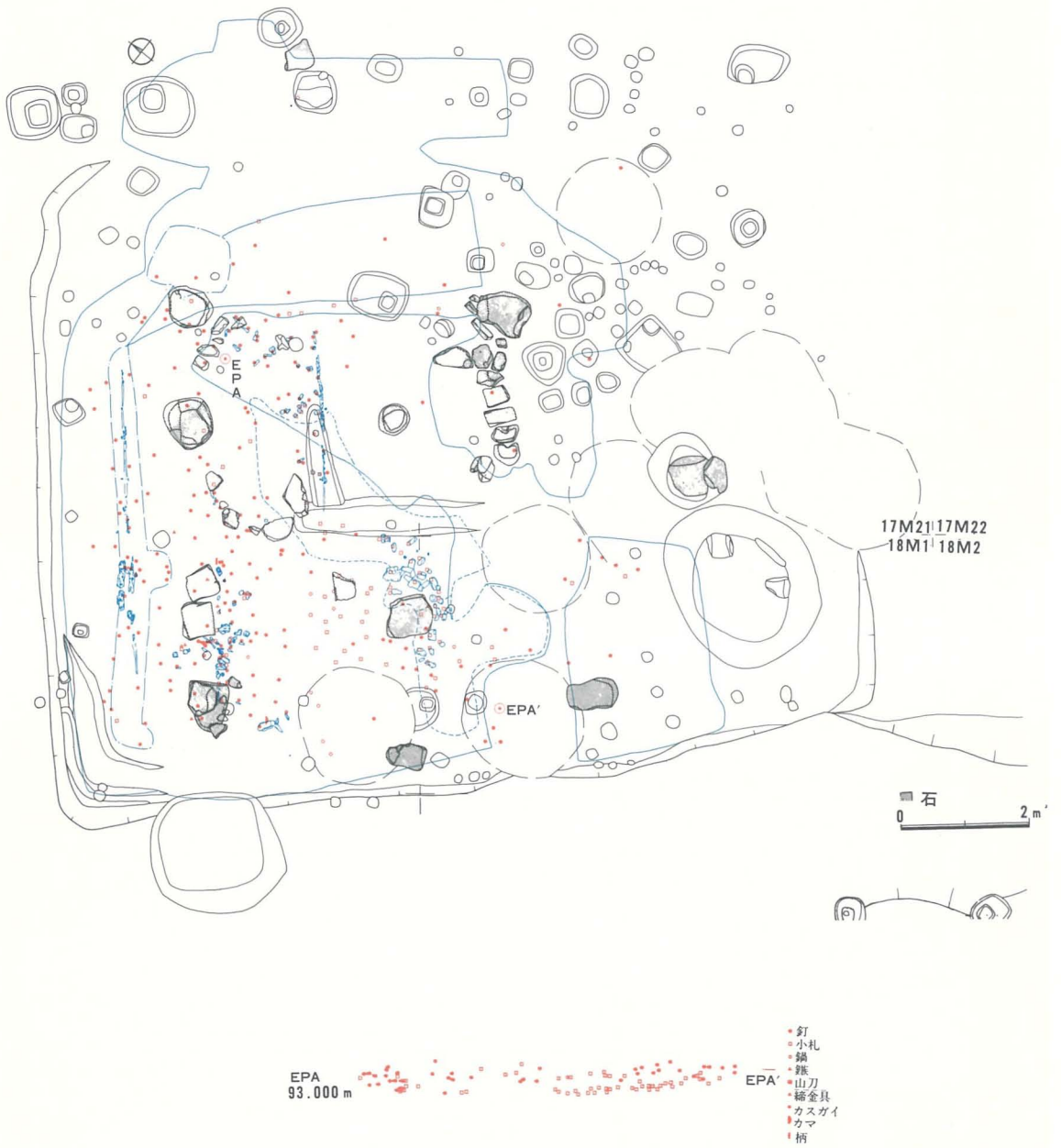
14、17は同種の止め金具類であろう。前二者は輪を二つ連結した形であるが後者はS字に曲げ密着させた形である。図示できなかったが、同種の紐金具(ぐみ)が出土している。12、15、16は八双鋳である。12は八重菊笠鋳で1本止めである。16は放射(菊花)状の笠に座金を一枚挟んで鋳止めるが先端が二本になっており、押し開いて止める。15は16の上部が欠失したものである。18～23は鋳(銅釘)である。19は一本のもの他は二本に開くものである。笠と組み合せて用いられるものであろう。銅滴・滓とした物には球状の固着物で一部空洞化した物もある。未製品は熔融、固着した物で面取り、紋様等の跡が残る失敗例かと推される物である。なお6は瀬戸・美濃の皿をるつぽに転用した物である。他に2点程あるが、いずれも過去の調査時に他地区で出土したものである。

鉄製品：本地区出土の鉄製品類を第10図と表1に示した。釘と小札の出土量が特に多い。10図8の小札は良好な遺存状態である。20は刀身と柄の境に締金具が残り、山刀、鉈の類と思われる。釘の一部に未使用品かと推される物もあるが、共通の特徴とすることはできない。

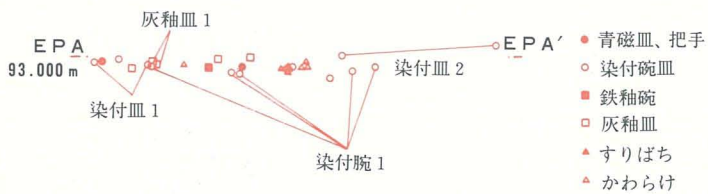
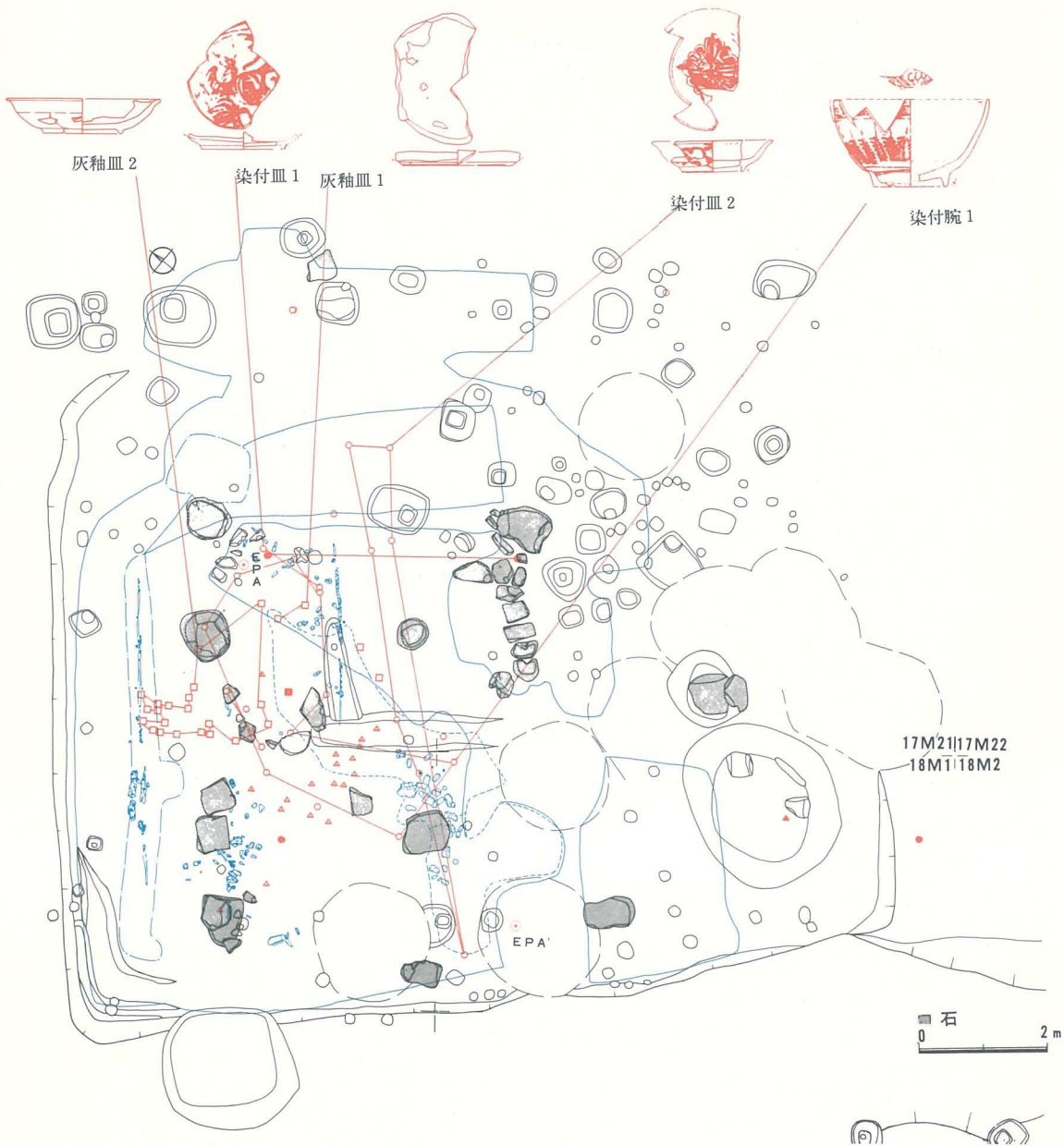
表1 鍛冶・鋳造跡出土遺物集計表(鍛冶・鋳造関連遺物、銅・鉄製品他)

種別	数量	点数	重量(g)	備考
鍛冶・鋳造関連遺物	るつぽ	(7)		7片6個体
	羽口	(2)		1個体
	鋳型?	(1)		3片同1個体
	銅地金	1	97.3	
	銅滴・滓	7	32.2	
	銅未製品	8	87.2	(失敗例?)
	鍛造剥片		2.1	
	砥石	2		
	計	(29)	218.8	
銅製品	八双鋳	3	5.4	
	八双金物	1	5.1	
	鞋	9	20.7	
	茱萸	1	2.9	
	縁金具	7	6.4	
	釘(鋳)	8	3.4	
	その他	8	37.6	紐金具他
	計	(37)	81.5	

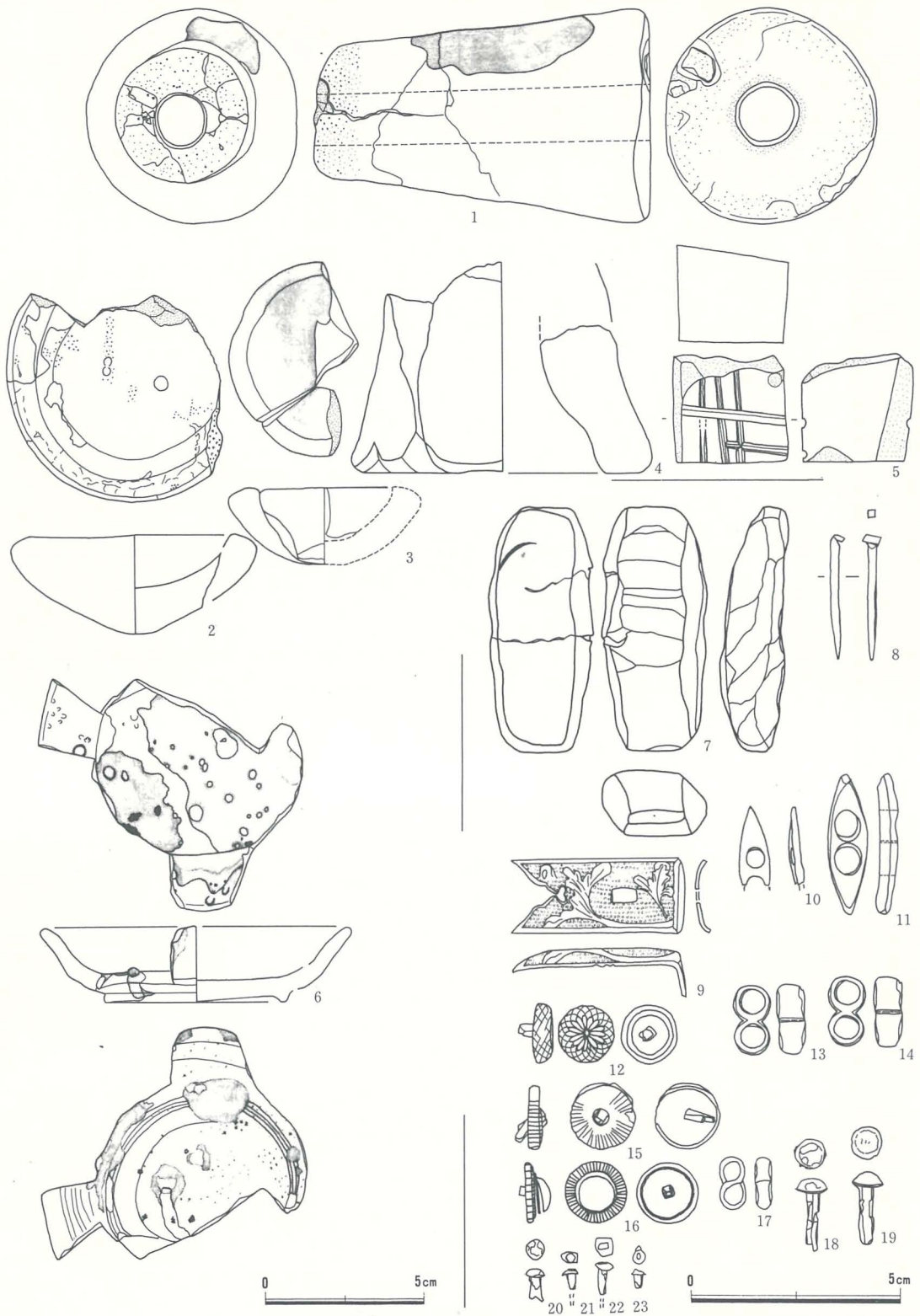
種別	数量	点数	重量(g)	備考	
鉄	鍋	(27)	801.8		
	建築用具	釘	(317)	836.3	
		鋳	1	4.0	
		小計	(317)	840.3	
	製	小札	(149)	810.2	
		刀子	(1)	20.0	
		小刀	(12)	335.3	
		鉄	(3)	35.4	
		小計	(164)	1,200.9	
	品	鎌	(1)	50.8	
締金具		4	15.0		
小計		(5)	65.8		
不明		2	106.1		
	計	515	3,014.9		
土製品	陶	1			
	その他	3		鋳型?(赤変)	
	不明	3			
	計	7			



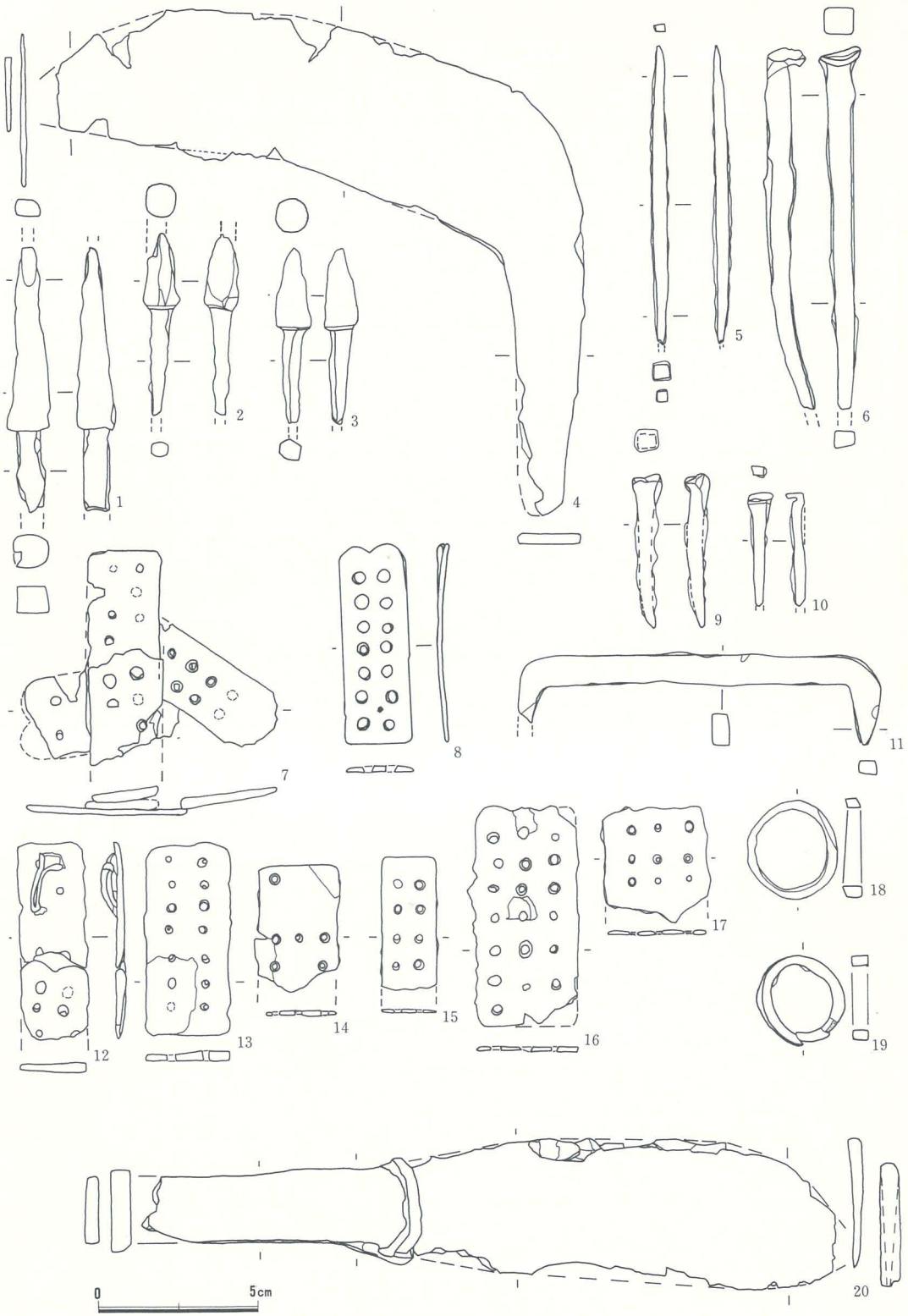
第7図 鍛冶・鑄造跡平面図 遺物分布図2(鉄製品)



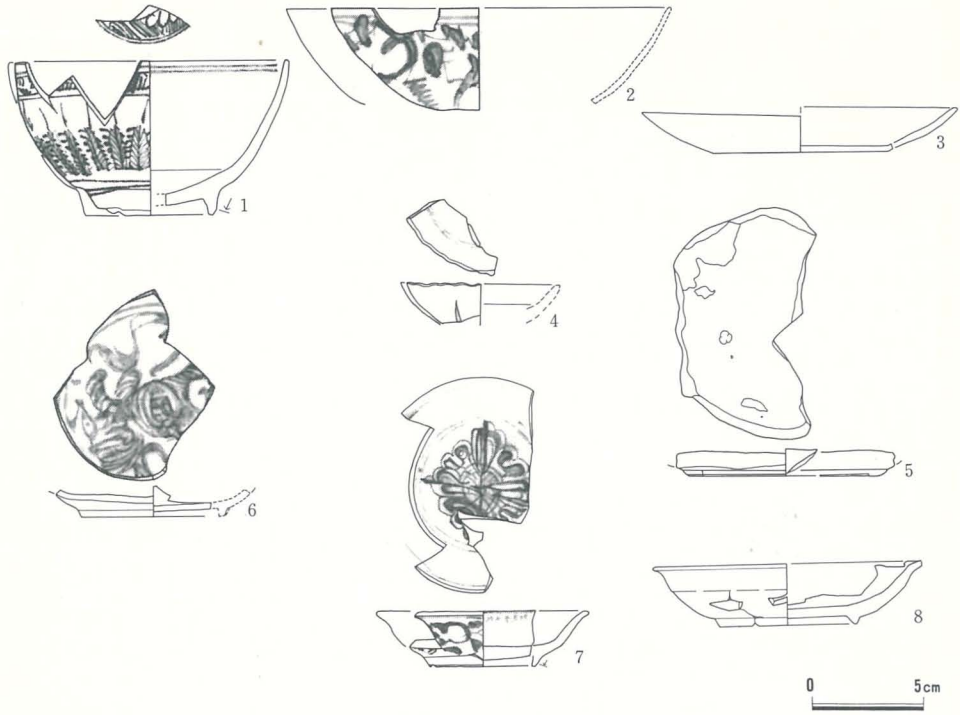
第8図 鍛冶・鑄造跡平面図 遺物分布図3(陶磁器)



第9図 鍛冶・鑄造跡出土遺物他



第10図 鍛冶・鑄造跡出土遺物

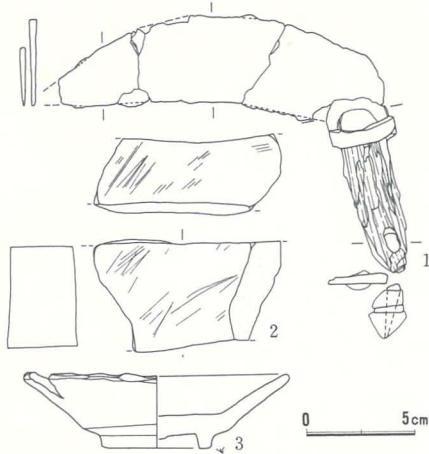


第11図 鍛冶・鑄造跡出土遺物

表2 鍛冶・鑄造跡出土陶磁器集計表

(総破片数)

器種	産地 種別	船 載			国 産						合 計	
		中 国			瀬戸・美濃		土 器	越 前	美 濃	小 計		
		青 磁	白 磁	染付	小 計	灰 釉						釉 釉
碗		6		28	34	3					11	45
皿		7	5	56	68	34		20			54	122
盤		3			3							3
播 鉢									9	1	10	10
甕壺鉢									29		29	29
その他		1			1		1				1	2
総 計		17	5	84	106	37	9	20	38	1	105	211



第13図 竪穴状土壌・井戸出土遺物

陶磁器：本地区出土陶磁器を第11図と別表に示した。第11図は表のうち表面が熱変しているものを主とした。これらは本地区の焼土が形成された時期を知る手掛りとなる資料と推されるものである。2、6、7は染付である。1、2の蓮子碗は勝山館内では第二段階として来た一群である。5、6は瀬戸・美濃灰釉皿である。5は径8.8cmの輪高台が付く。外面高台脇以下無釉、内面も既存部分は殆んど無釉で一部見込みに釉が流れこんでいる。体部上半のみ内外施釉する皿であろう。6は見込みに菊の印花文を有する端反り皿である。大窯I期であろう。③はかわらけ(土師器)である。宇野隆夫氏のご報告によれば京都系の16世紀初め頃の物かと推されるとのことである。この外に図示していないが熱変の陶磁器に青磁稜花皿、染付列点文状の蓮子碗1、染付十字花文皿2、瀬戸・美濃灰釉端反皿2、同鉄釉(天目茶)碗(大窯I)1、角形口唇の越前播鉢1などの破片がある。図1、4の染付の熱変は明らかでない。他に染付基筒底魚文皿、などの熱変を受けていないものがある。

羽口の形態は従前勝山館で出土していた物に比し、大きさ径共に小型で一端が漏斗状に広いなど著しく異っている。従来の羽口の先端には鉄分(滓)の付着した物もあり、鉄の加工等に使用したものとすることができる。本例については、類例にあたることができなかつたが後述の銅の鑄造に関連すると推される遺物の存在から、これに用

いられた羽口と考えられる。銅地金・銅滓付着のつば、鑄型、銅滴・滓、鑄込みの失敗と思われる未製品と37点の銅製品の出土は本地区での銅の鑄造加工作業の存在を示すものであろう。又銅製品が全て甲冑金物であることは更に留意される。

他方鉄製品が小札と釘を中心に大量に出土していることも留意される。少量の鍛造剥片以外に鉄の加工に連る資料は得られていないが、小札の多いことは銅製品が甲冑金物だけであることと関係することかも知れない。

(5)、竪穴状土壌・井戸跡

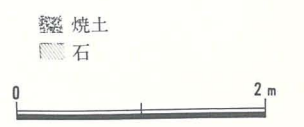
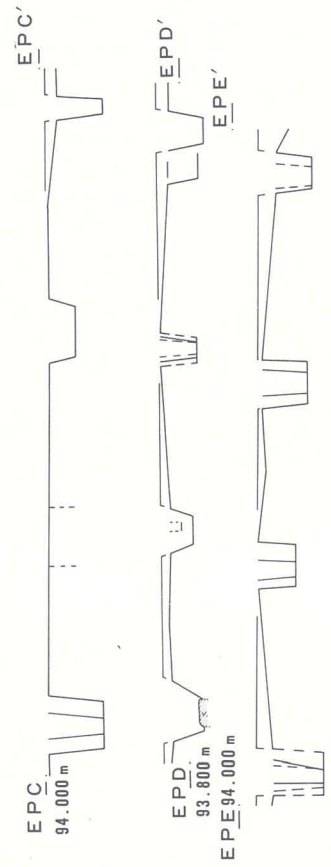
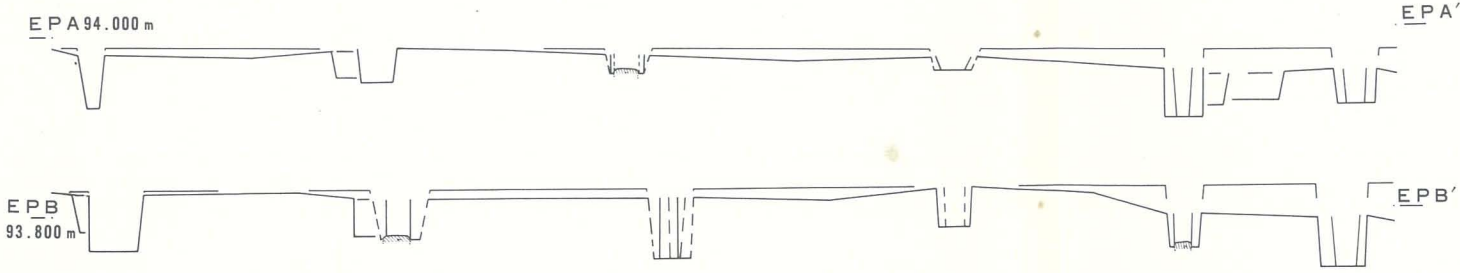
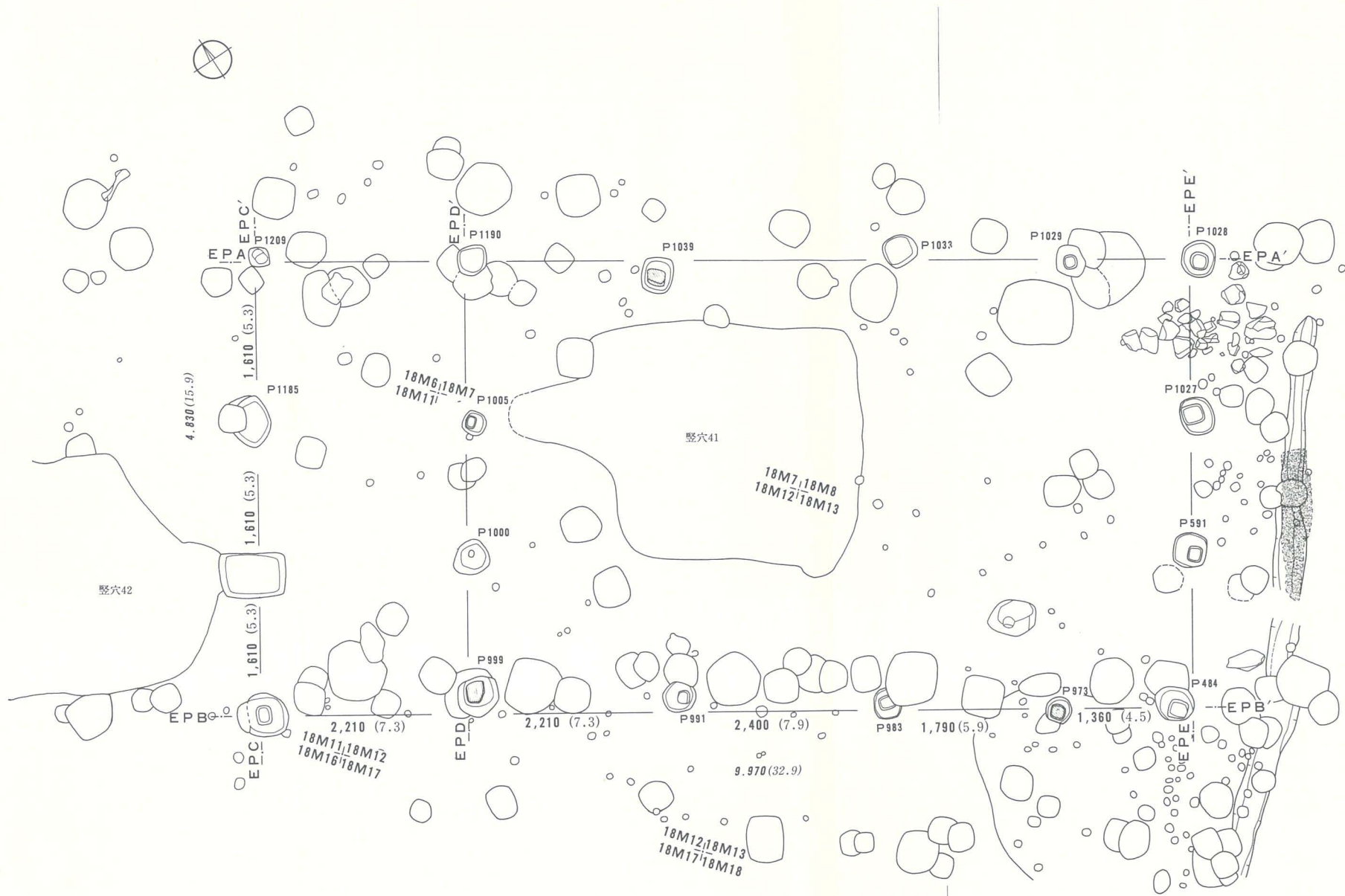
1：17L17・22区に位置する。4.6×3.6cm程の隅丸方形で深さ1～0.7mである。短軸北東側が浅く張り出す。3条の溝状の凹みがこれに重なるが、付随するものか、他の地割溝かは不明である。覆土は粘土質で堅く礫を多く含む。北東壁際に30×50cmの大きな礫が集中していた。施設の一部とも推したが明らかでない。粘土質の床面に柱穴があるが、西隅には検出できなかった。又集石の下位にP227に対応する柱穴も考えられたが石をはずして調査はしていない。覆土中から第14図2、3の他、鉄鍋12片、釘17、小札1、陶錘2点が出土した。3の青磁稜花皿は前述の鑄造跡出土の熱変した破片と接合する。柱穴が一部欠けているが上屋の架けられる遺構と推される。性格は不明である。

2：M25区に位置する。南東壁は井戸の掘り上げに伴い消失したものと推される。1よりは浅い。ほぼ同一のものであろう。

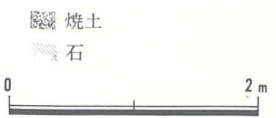
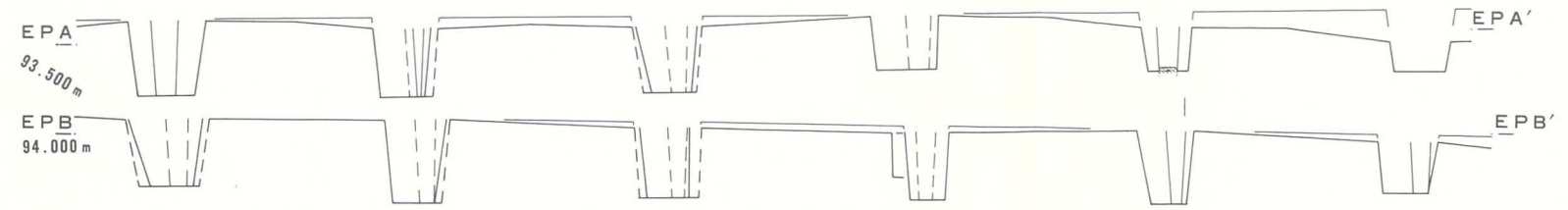
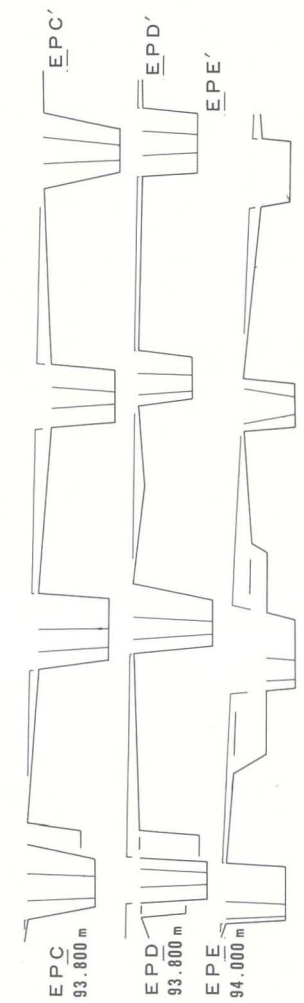
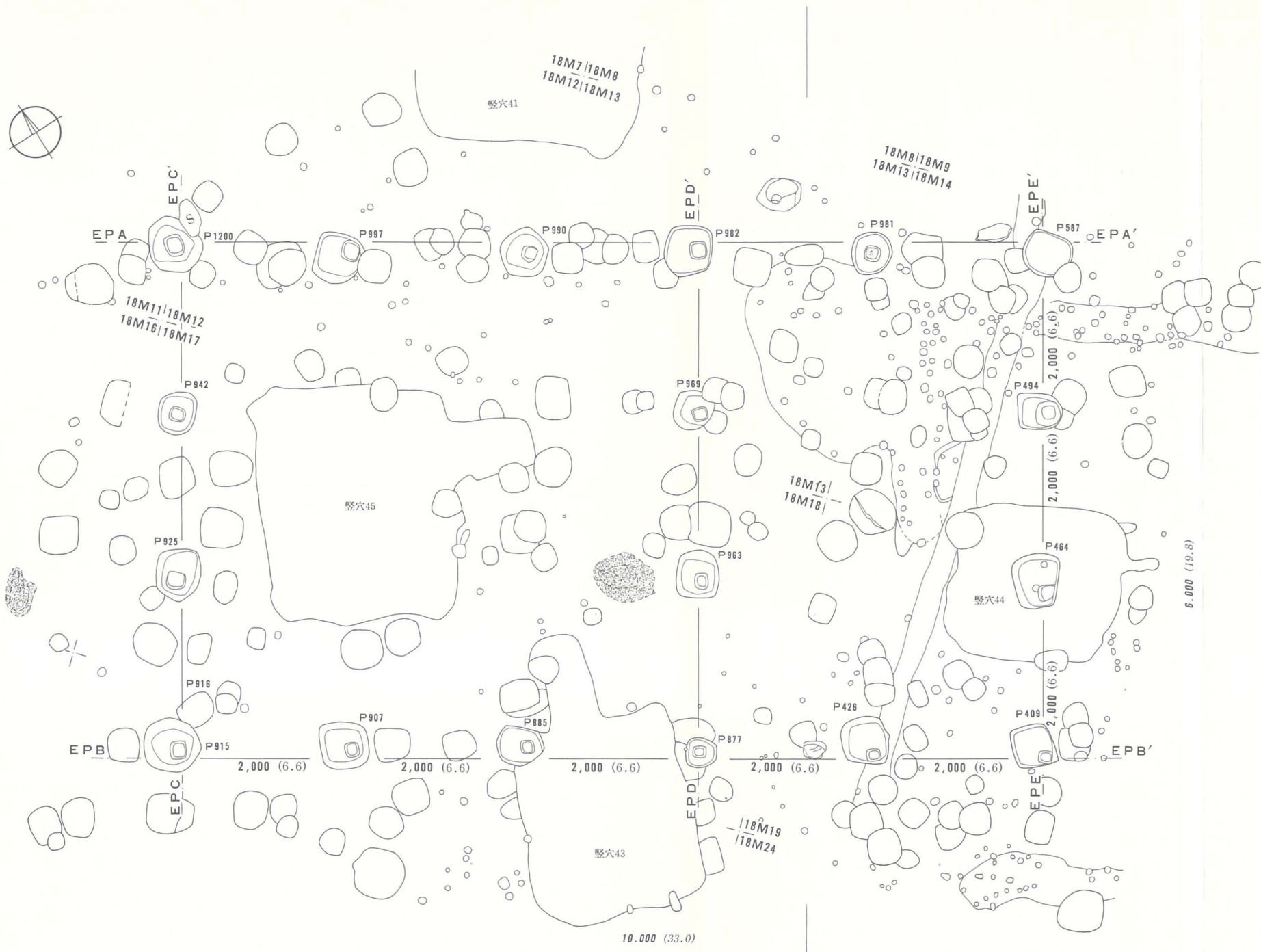
井戸跡：17M25区に位置する。上部掘り込み部は3.3×2.8mの長円形でも長軸北東側に巾50～60cm長さ1.5m程の溝状の張り出しが付く。地表下0.9～1.6mまでは漏斗状、以下途中は崩落の為か幾分抉れながら真直に壙底に至る素掘りの井戸である。上部径1.4×1.3m底径1.0×0.9m、地表からの深さ6.4m余。覆土最上部には大量の礫が堆積する。第14図1の鎌は上部覆土中の出土。陶磁器等若干出土しているが、未整理である。竪穴状土壌2の埋没後に掘られた井戸である。

(6) 掘立柱建物跡

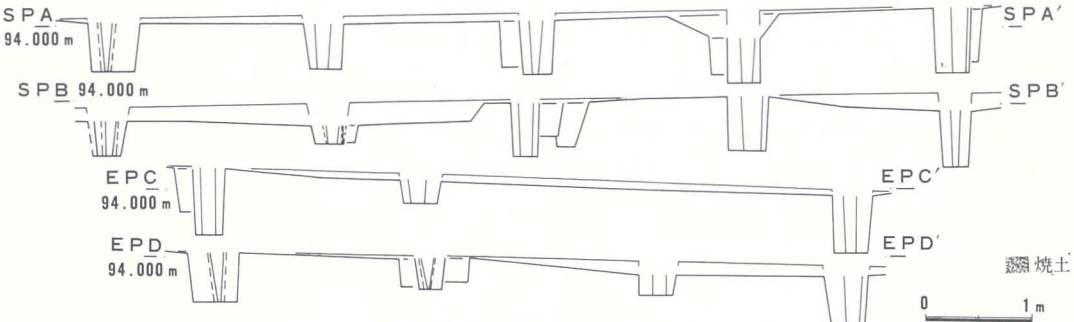
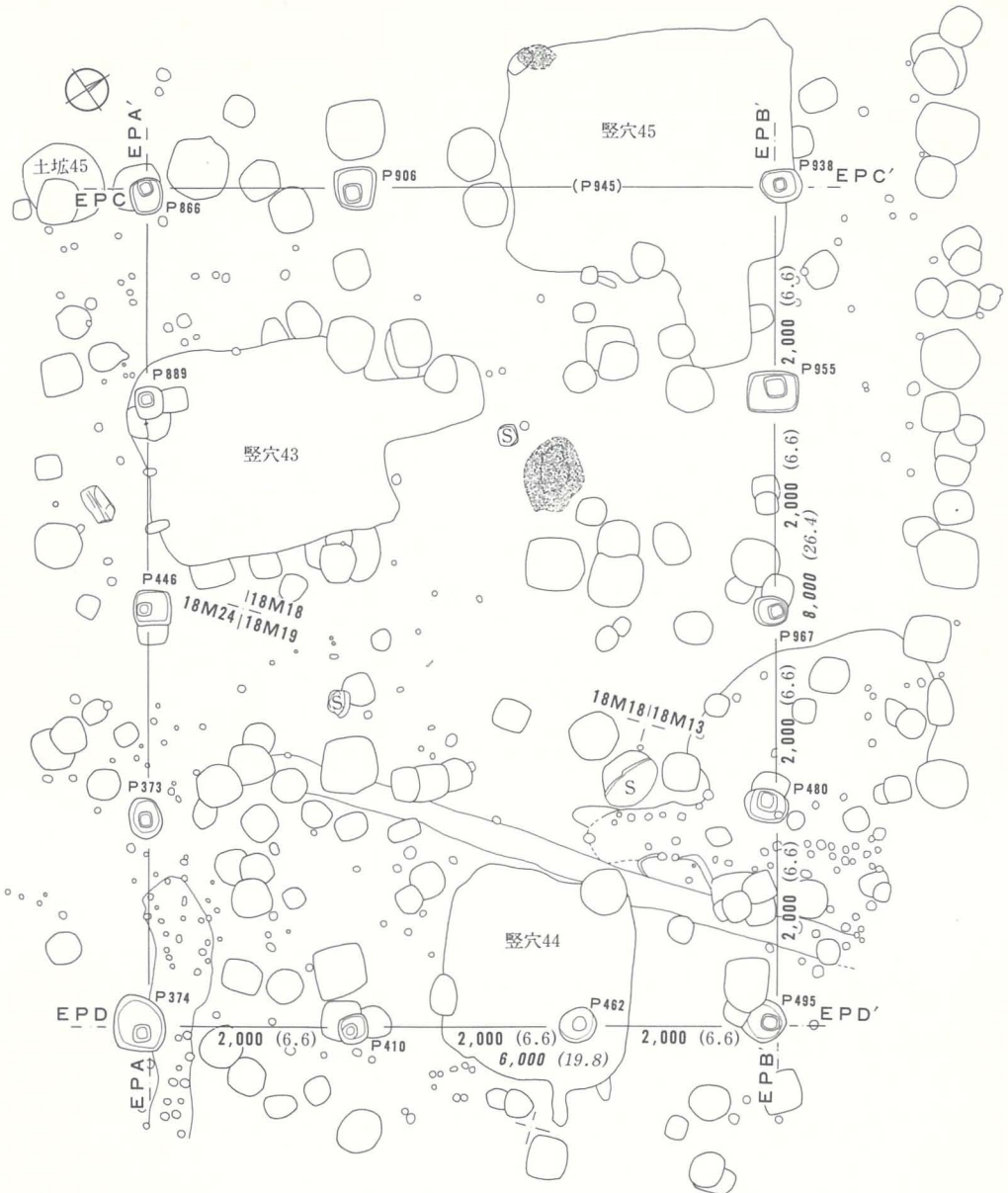
第1号建物跡(第15図)：18M7・8、12・13区周辺に位置する。3×5間で梁行の柱間は5.5尺等間、桁行は7.3尺等間の3間と、南側11尺を6.5尺と4.5尺の2間とする建物と想定した。柱穴内に一



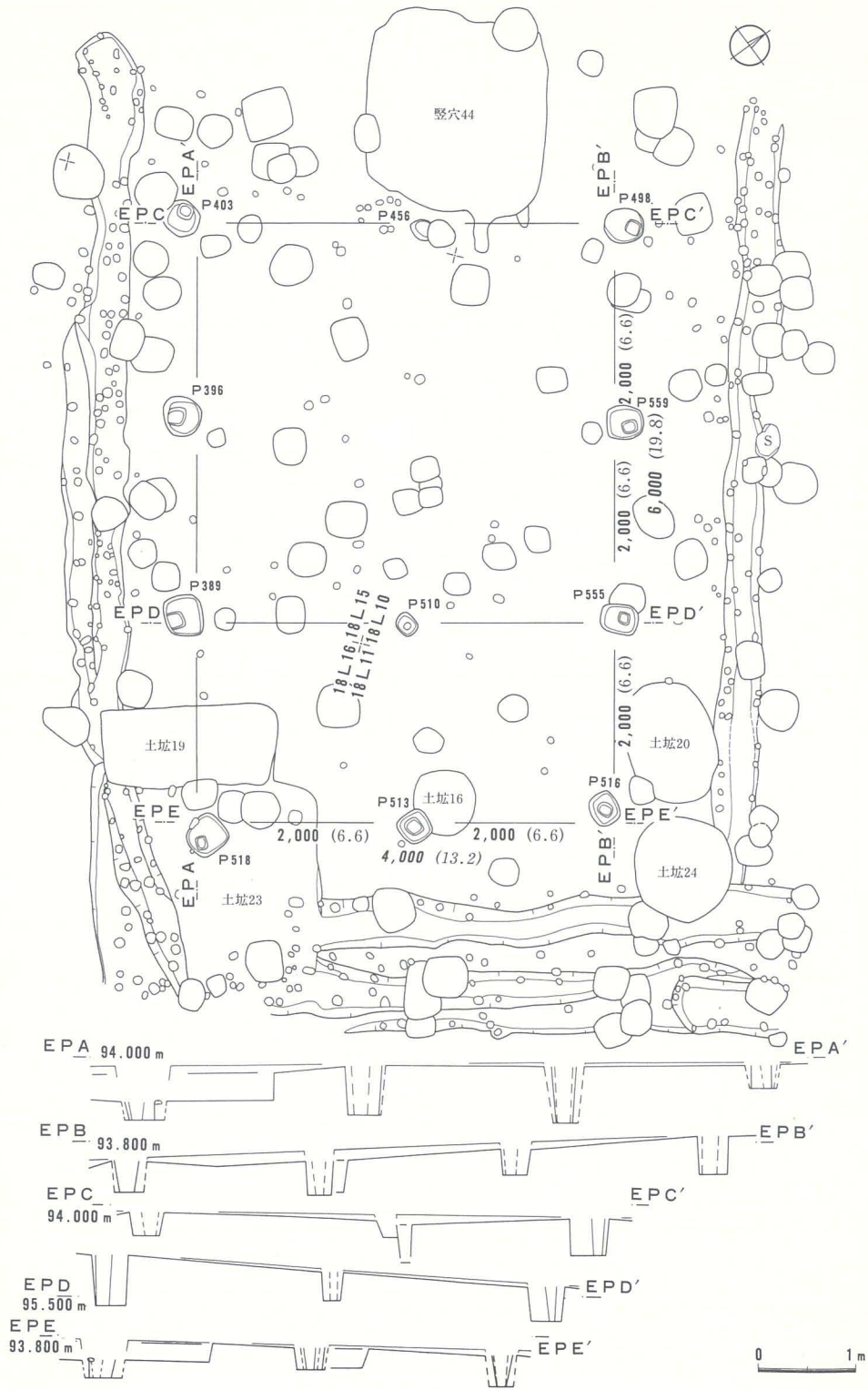
第15图 第1号建物跡想定图



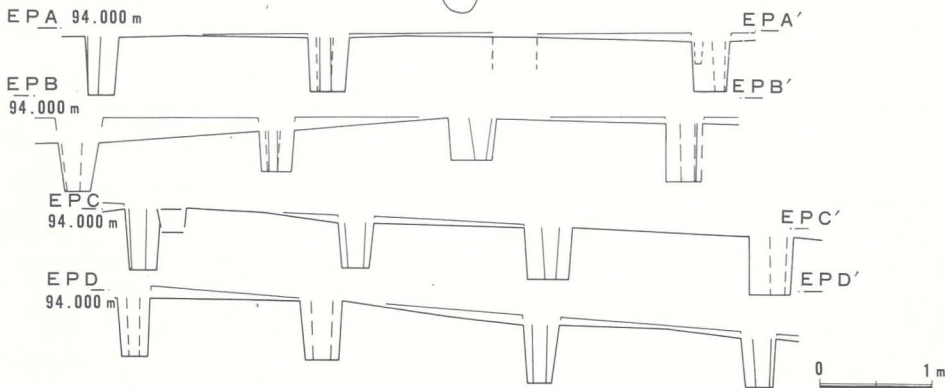
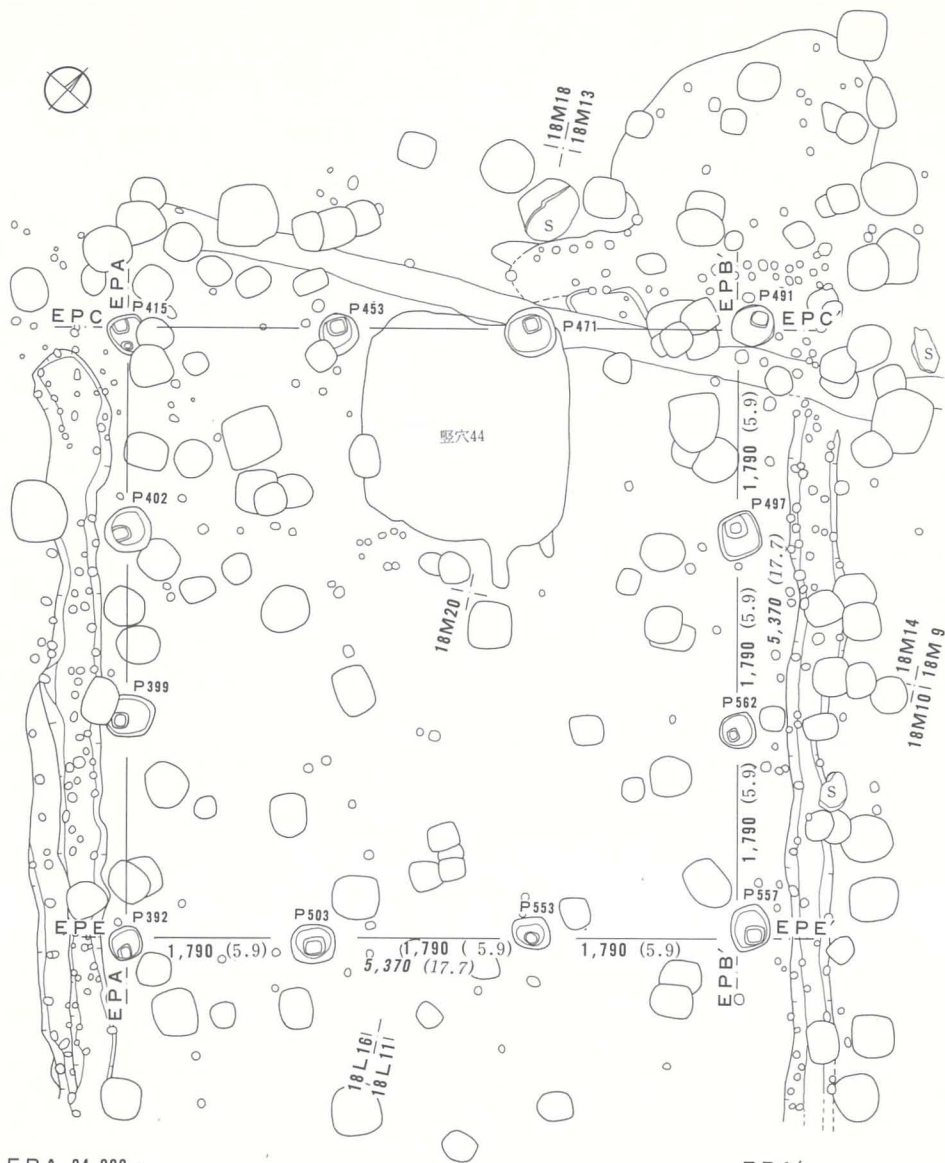
第16图 第2号建物跡想定图



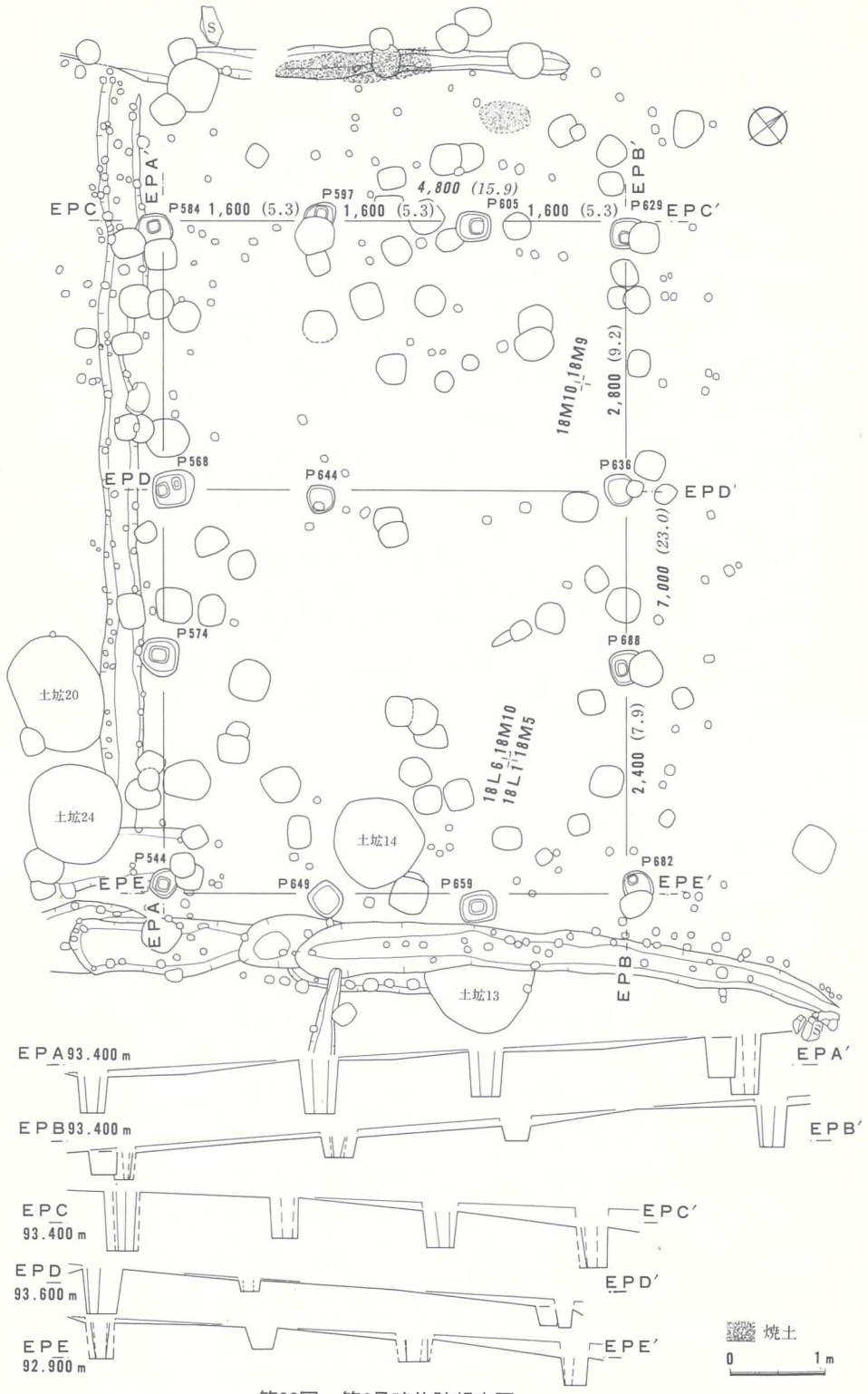
第17图 第3号建物跡想定图



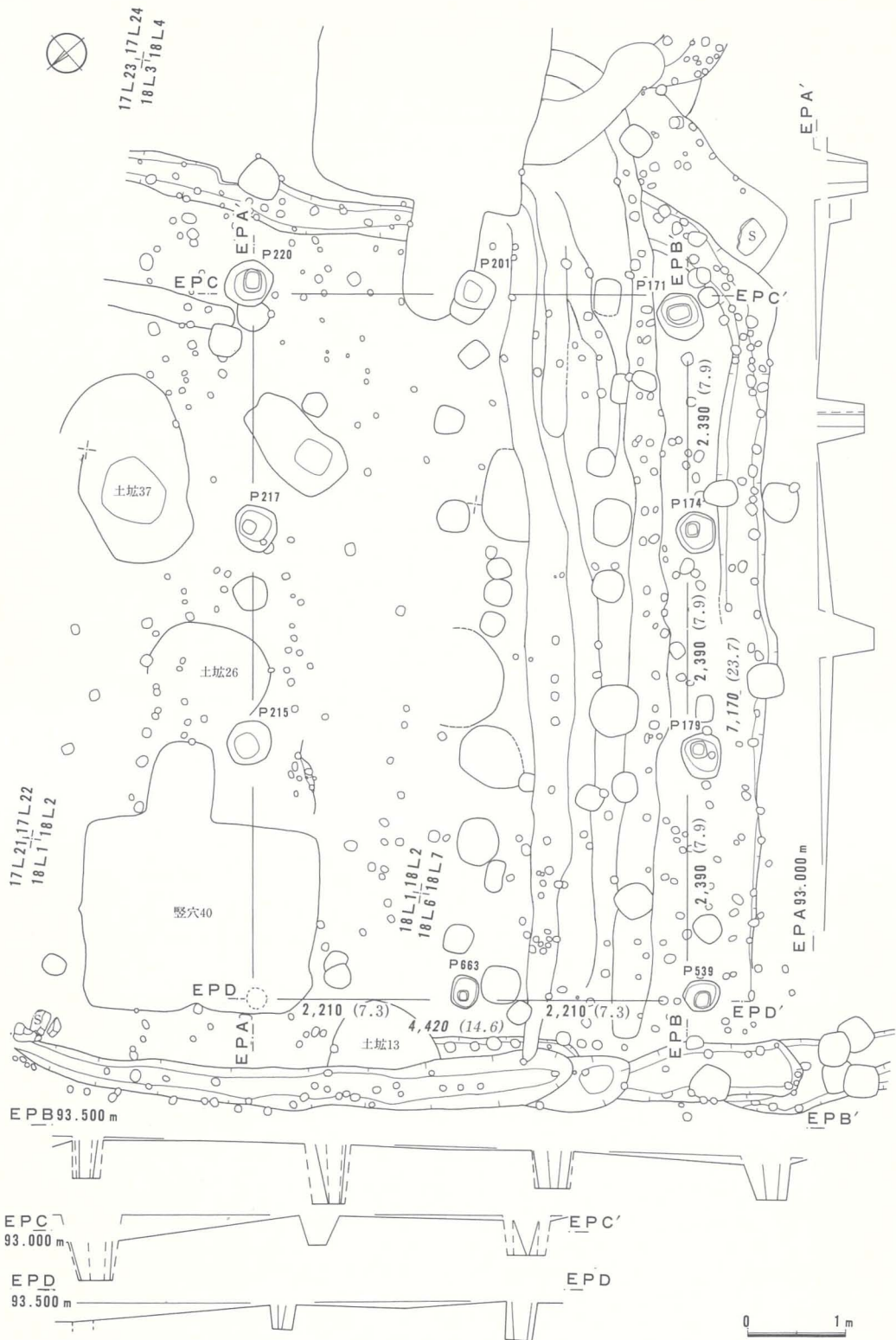
第18图 第4号建物跡想定图



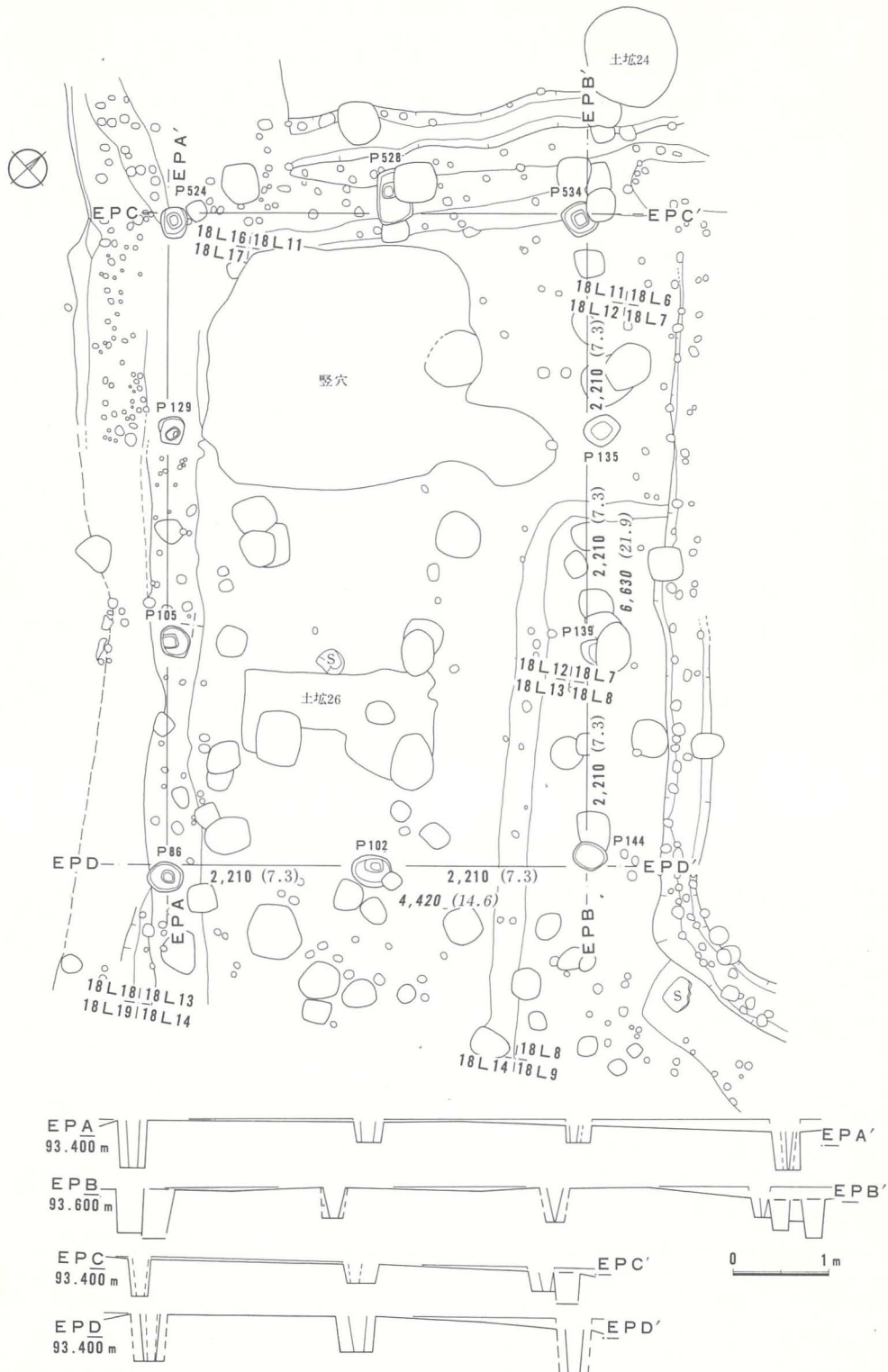
第19図 第5号建物跡想定図



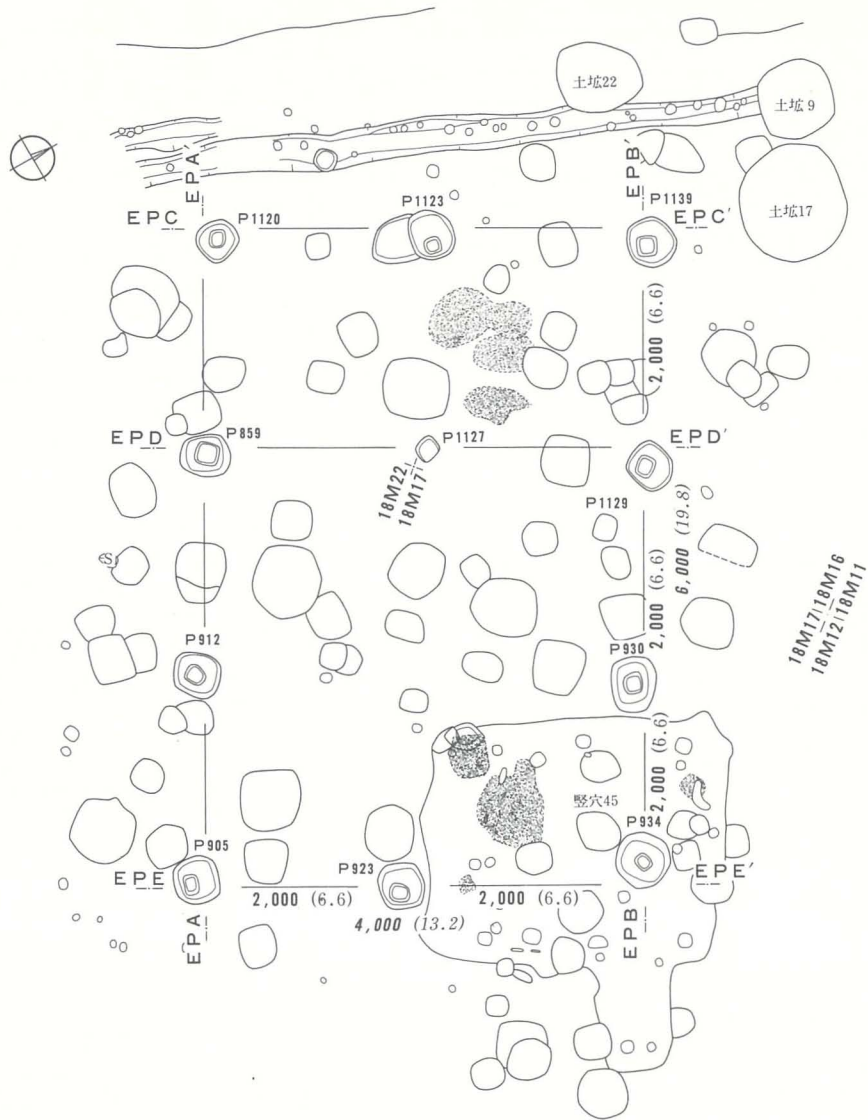
第20図 第6号建物跡想定図



第21图 第7号建物跡想定図



第22図 第8号建物跡想定図



部石が支えとして用いられている。一番北寄り一間は仕切られるようである。南端柱列の50~60cmには地割界と推される溝がみられるが、他の三面は明らかでない。第2号建物跡より古い。

第2号建物跡(第16図): 18M17・18区周辺に位置する。第1号建物跡の西でその西柱列に本建物跡の東柱列が重複する。3×5間、柱間は6.6尺等間で3×3間と3×2間の二室からなる建物と想定した。地割界を示す溝跡は明らかでない。

第3号建物跡(第17図): 18M18区周辺、第2号建物跡の西に位置し、 $\frac{2}{3}$ 余りが重複する。3×4間で柱間6.6尺の等間の建物跡と想定した。北柱列の1柱穴は堅穴45と重複している。間仕切り、地割界は明らかでない。

第4号建物跡(第18図): 18M10区周辺に位置する。2×3間、6.6尺等間で、2×2間と2×1間の二室からなる建物跡と想定した。東西と南側は柱筋にはほぼ平行する溝跡が敷地の地割界を示すと推される。北の溝跡は柱列と軸線が異っている。

第5号建物跡(第19図): 18M19、20区周辺、第4号建物跡と $\frac{1}{2}$ 余重複して北に位置する。3×3間、5.9尺等間の建物跡と想定した。東西と南の地割界溝は第4号建物跡と同じ溝跡かと推されるが、北側は不明である。

第6号建物跡(第20図): 18M10区周辺、第1号建物跡南、第4、5号建物跡東に位置する3×3間の建物跡を想定した。梁行は5.3尺等間であるが桁行は、9.2、5.9、7.9尺と不規則である。

第7号建物跡(第21図): 18L7区周辺、第6号建物跡の溝を挟んで北側に位置する。2×3間、梁行の柱間7.3尺、桁行7.9尺の建物と想定した。北隅の柱穴は堅穴40号との重複により欠失している。本地区の溝はつくり替えが激しく明確ではないが、敷地地割を画する溝が屈曲するようである。

第8号建物跡(第22図): 18L22区周辺、第7号建物跡西、第4号建物跡の南に位置する。2×3間、梁行7.3尺等間、桁行7.3、7.9、7.3尺の柱間の建物跡を想定した。しかし南側は未調査であり、更に大きくなるかも知れない。東は、7号建物跡との間の、北は7号建物跡から続く溝跡が画すると推される。西は一部のみ調査した。破線で位置を示した溝跡が地割を画する溝跡かと推している。

第9号建物跡(第23図): 18M22区周辺に位置す

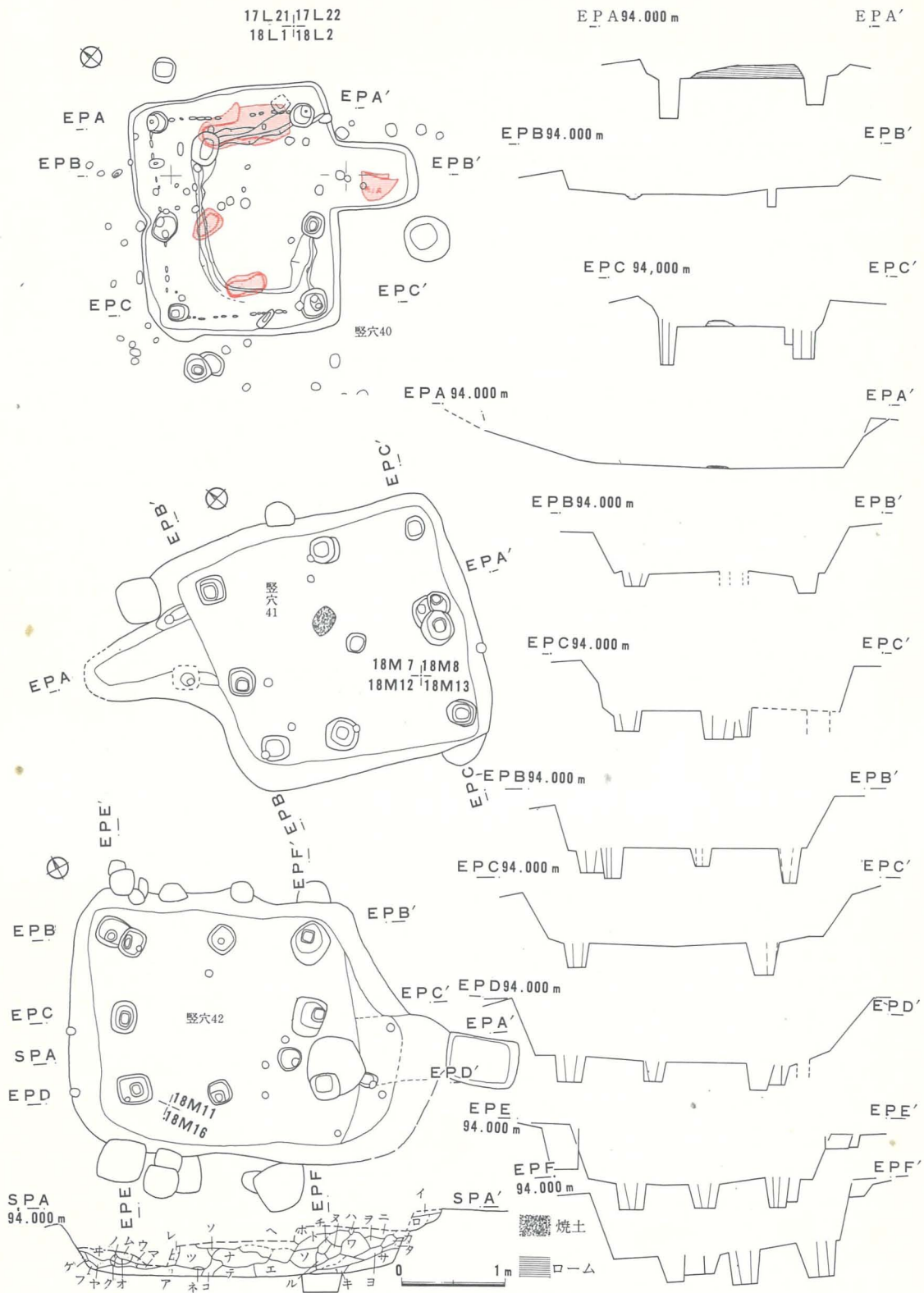
る2×3間、6.6尺等間の建物跡と想定した。

(7) 堅穴建物跡、土壌、溝

a 堅穴建物跡

本年度の調査で10基の堅穴建物跡を検出したがこのうち18L3・4区と18L12区に位置する2基は過年度(昭和55年度)に調査されたものである。一辺が2mから2.8mと幾分大小の差がある方形で一方に出入口とされる緩く傾斜する張り出しが着く。この出入口はほぼ掘立柱建物跡の軸線に直行又は平行するが、その方向は一定していない。18M13、14区の不整形な落ち込みは小柱穴、柱穴等から、堅穴建物跡の可能性が考えられる。18M4区踏石状石積、土壌12の下位に堅穴建物跡が推されたが完掘していない。18L16区の方形の落ち込みも同様の可能性がある。40~43、45、46の床面で焼土、炭化物の堆積が見られた。掘立柱の建物跡との前後関係は、一部整理途中にあるが、相互に切り合うようであり、一方だけを古くすることはできないと推している。40~46号堅穴から1~5点(4.2~91.8g)の釘が出土し、40、43、45号堅穴から鍛造剥片が0.6~11.3g出土している。他に鍋、カスガイ、小札、小刀等が出土しているが、45号を除いて少量である。

第45号堅穴建物跡(第25図): 18M17区に位置する。28×2.2m、深さ55cm、長軸は南北方向。短軸に平行して東側へ1.1mの出入口が張り出して付く。柱穴はイチの8個と推されるが、ハチなど更に検討しなければならないものもある。出入口張出しには基部と先端に2個1対づつの小柱穴がある。出入口の踏み板等を支えるものであろうか。この堅穴は火災により焼失したらしく内部に大量の炭化材等が堆積していた。細かな観察等ができていないが概要を記す。炭化材等は床面に密着するものは少ない。柱材は柱穴内には残っていない。これは火災の際床面より高い位置の部材等は焼失炭化した為残存したが、床に密着したもの、柱穴内等地下に埋まった部分は炭化せず、その後腐蝕消失したものと推される。柱穴口、トの柱材が炭化残存したが、少くともトは正方形ではなく、長方形の所謂半柱の形状である。トの柱材の外側に北へ厚さ2cm、巾10~15cmの炭化した板材が立って3~4枚出土した。イチト、イチハなど四周の柱列の外側に、ほとんどがほぼ柱列に平行して茅類が集まっていた。直立の板材は壁板を示すもの



第24図 第40、41、42号堅穴遺構平面図

と推している。床面を精査すると柱穴の外側に巾2cm、長さ10cm余の浅い溝を検出できたがこれがこの板材の床面に残された痕跡と推するところである。茅類は壁の断熱・防風材又は屋根の葺代であろう。東ねた痕はまだ明らかでない。長軸南部、柱列イ〜トの外側が他の面或いは他の堅穴に比し広くとられているが茅類以外の炭化材は少なく、四周に壁材が廻る建物はこの柱列外側までで完結するかと推するものである。幾分まとまって小柱穴が分布するようであるが、或いは棚状の施設を支える一部でもあろうか。或いは当初の建物を南

側だけ縮小して建てかえた結果とも推されるが、なお検討しなければならない。覆土中から他の堅穴に比べ多量の鉄製品が出土している。釘42点113g、小札48点166gなどが目立つところであるが、更に出土位置等細かく検討したく思っている。美濃大窯I期の鉄軸碗(第27図5)も出土している。

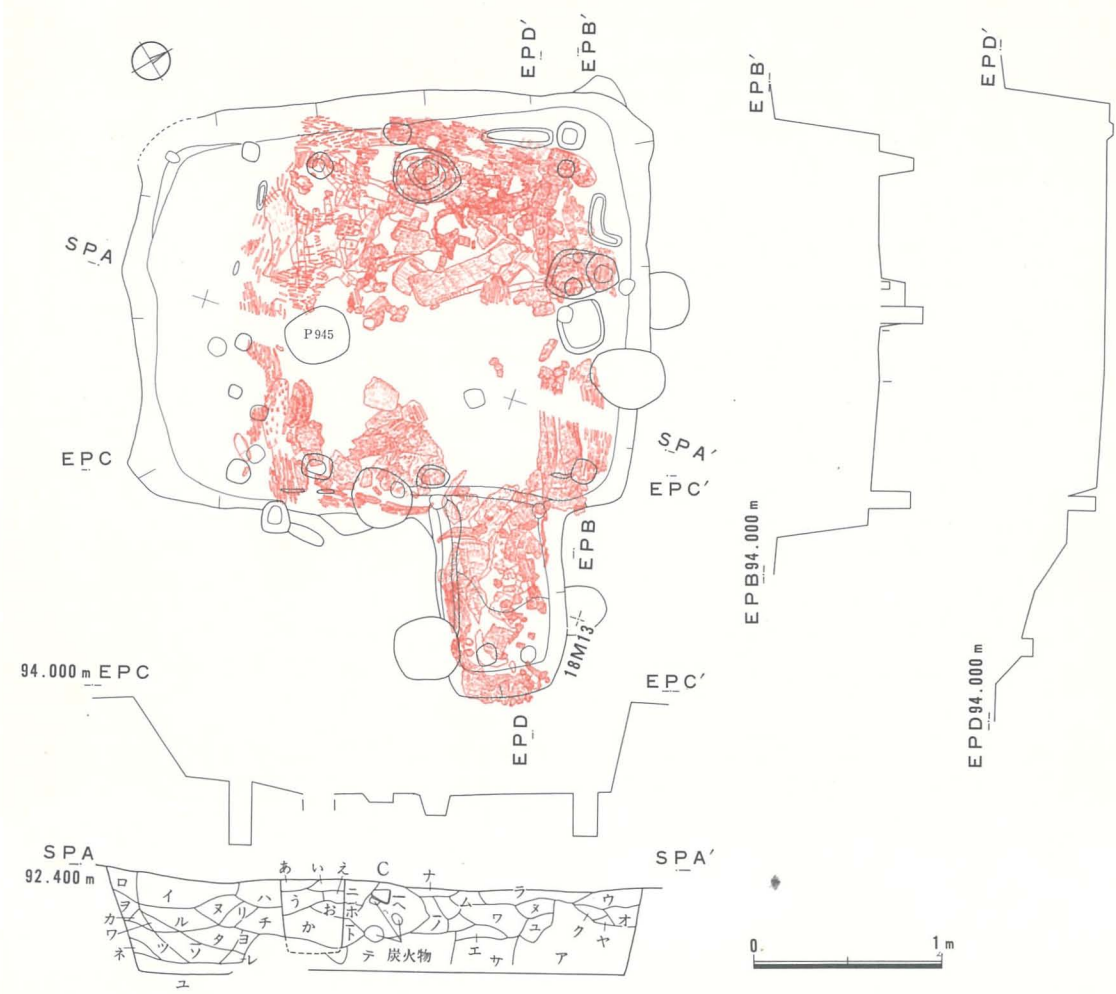
45号堅穴の炭化材中に壁体と推されるものがありその痕跡を床面に見たが、40、43、18L12過年度調査堅穴等にも同様の痕跡を検出し得た。ある程度推測の妥当性を示し得たかと思う。

18M11 堅穴42東西セクション南壁(SPA-A')土層堆積

イ	10YR 4/4褐	礫粒	C、ややハード
ロ	10YR 3/4暗褐	焼土粒	C少量、ローム粒少量(イよりハード)
ハ	10YR 4/4~4/6褐	ローム	C
ニ	10YR 4/4褐	焼土粒	ローム粒・C、ややソフト
ホ	10YR 4/4褐	焼土粒	ローム粒・C、礫粒
ヘ	10YR 4/4~4/6褐	焼土粒	ローム粒・C、礫粒ソフト
ト	10YR 4/4褐~3/4暗褐	焼土粒	ローム粒・C、ソフト
チ	10YR 4/4褐	ロームブロック	C 砂利、粘土質
リ	10YR 4/4褐	ローム粒	C 焼土粒(イ)よりソフト
ヌ	10YR 4/4褐	ローム粒	C (イ)より粗
ル	10YR 4/4褐	C	やや粘性(イ)よりソフト
ヲ	10YR 4/4褐	C	(イ)よりソフト
ワ	10YR 4/4~4/6褐	ロームブロック	焼土粒 C
カ	10YR 4/4褐	ロームブロック	C
ヨ	10YR 4/4褐~3/4暗褐	礫粒	ローム粒 C
タ	10YR 3/4暗褐	礫粒	ローム粒 C 焼土粒
レ	10YR 4/4褐	ローム粒	ローム粒 C 焼土粒 ソフト
ソ	10YR 3/4暗褐	焼土粒	Cやや多い
ツ	10YR 4/4褐	小礫	ローム粒 C
ネ	10YR 5/6黄褐	全面ローム	
ナ	10YR 4/4褐~3/4暗褐	ロームブロック	焼土粒、C、ソフト
ラ	10YR 4/4褐	ロームブロック	C (イ)より粘質
ム	10YR 4/4褐	礫粒、焼土粒	C ややハード
ウ	10YR 4/4褐	ローム粒	C 粗
キ	10YR 4/4褐	ロームブロック	焼土粒 C、火山灰微量
ノ	10YR 4/4褐	ローム粒	焼土粒やや多い
オ	10YR 4/4褐~3/4暗褐	ローム粒	C
ク	10YR 4/6褐	C	焼土粒多い
ヤ	10YR 3/4暗褐	C	(キ)よりソフト
マ	10YR 6/6明黄褐	C	全面ローム
ケ	10YR 4/4褐	ローム粒	C、ややソフト
フ	10YR 3/4暗褐	ローム粒少量	C、ソフト
コ	10YR 4/4~4/6褐	ローム	C 粘質 ソフト
エ	10YR 4/4褐	ロームブロック	C 粘質
テ	10YR 4/4褐~3/4暗褐	ロームブロック	C 粘質 ややハード
ア	10YR 4/6褐	焼土粒	C 粘土質
サ	10YR 4/6褐	C	全面ローム
キ	10YR 4/4褐	焼土粒	C 粘質 (イ)よりハード

18M14 堅穴44南北セクション東壁(SPA-A')土層堆積

I-1	10YR 4/4褐	礫粒	草根多量
III-1	10YR 4/4褐	礫粒	ローム C微量
V-1	10YR 4/6褐	礫粒	C微量 全面ローム、ハード
イ	10YR 3/5暗褐	礫粒	焼土粒 ローム C微量
ロ	10YR 4/4~4/6褐	礫粒	焼土粒 ローム C微量ハード
ハ	10YR 4/4~4/6褐	礫粒	焼土粒 ローム C微量ソフト
ニ	10YR 4/4~4/6褐	礫粒	焼土粒 ローム C微量ややハード
ホ	10YR 4/4~4/6褐	礫粒	焼土粒 ローム C微量火山灰ややハード
ヘ	10YR 3/2褐~1/2黒褐	ローム	C微量湿性ソフト
ト	10YR 3/4暗褐	礫粒	ローム C少量
チ	10YR 4/4~4/6褐	礫粒	焼土粒 ローム C少量
リ	10YR 3/4暗褐	礫粒	焼土粒 ローム C少量
ヌ	10YR 4/4褐	礫粒	焼土粒 ローム C少量
P-462 A	10YR 4/4褐	礫粒焼土粒	C少量
P-463 1	10YR 4/4褐	ローム少量	C微量
2	10YR 4/4~4/6褐	ローム多量	C微量 ハード
3	10YR 3/4暗褐	ローム多量	C微量 焼土粒
4	10YR 3/4暗褐	ローム少量	C微量 焼土粒
5	10YR 3/4暗褐	ローム少量	C少量 焼土粒ソフト
6	10YR 3/4暗褐	礫粒	ローム C微量 ソフト
7	10YR 3/4暗褐	礫粒	焼土粒 ローム C少量 ソフト
8	10YR 4/6褐	C微量	全面ローム
9	10YR 3/4暗褐	礫粒	C微量 ロームソフト
P-461 い	10YR 4/4褐	礫粒	ローム多量 ややハード
P-454 い	10YR 4/4褐	礫粒	ローム多量 ハード
ろ	10YR 3/4暗褐	礫粒	ローム、焼土粒 C微量、ソフト
は	10YR 4/6褐	礫粒	焼土粒 C微量、全面ローム ハード
に	10YR 4/6褐	礫粒	C微量 全面ローム ハード
ほ	10YR 4/4~4/6褐	礫粒	焼土粒 C微量、ローム多い湿性
小柱穴1	10YR 4/6	礫粒	C微量、ローム多量
小柱穴2	10YR 3/4	礫粒	C微量、ローム

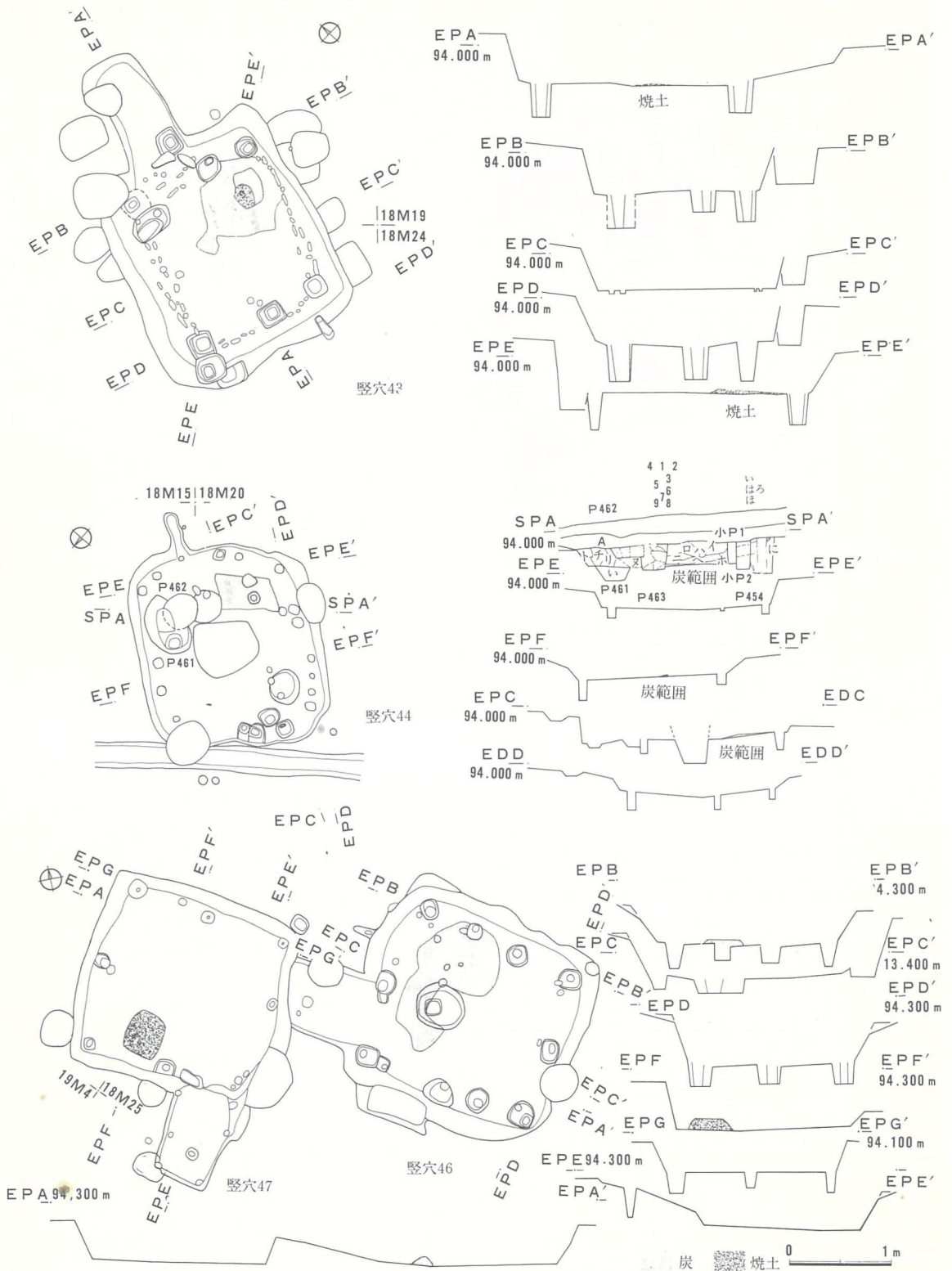


竪穴45
A~A'

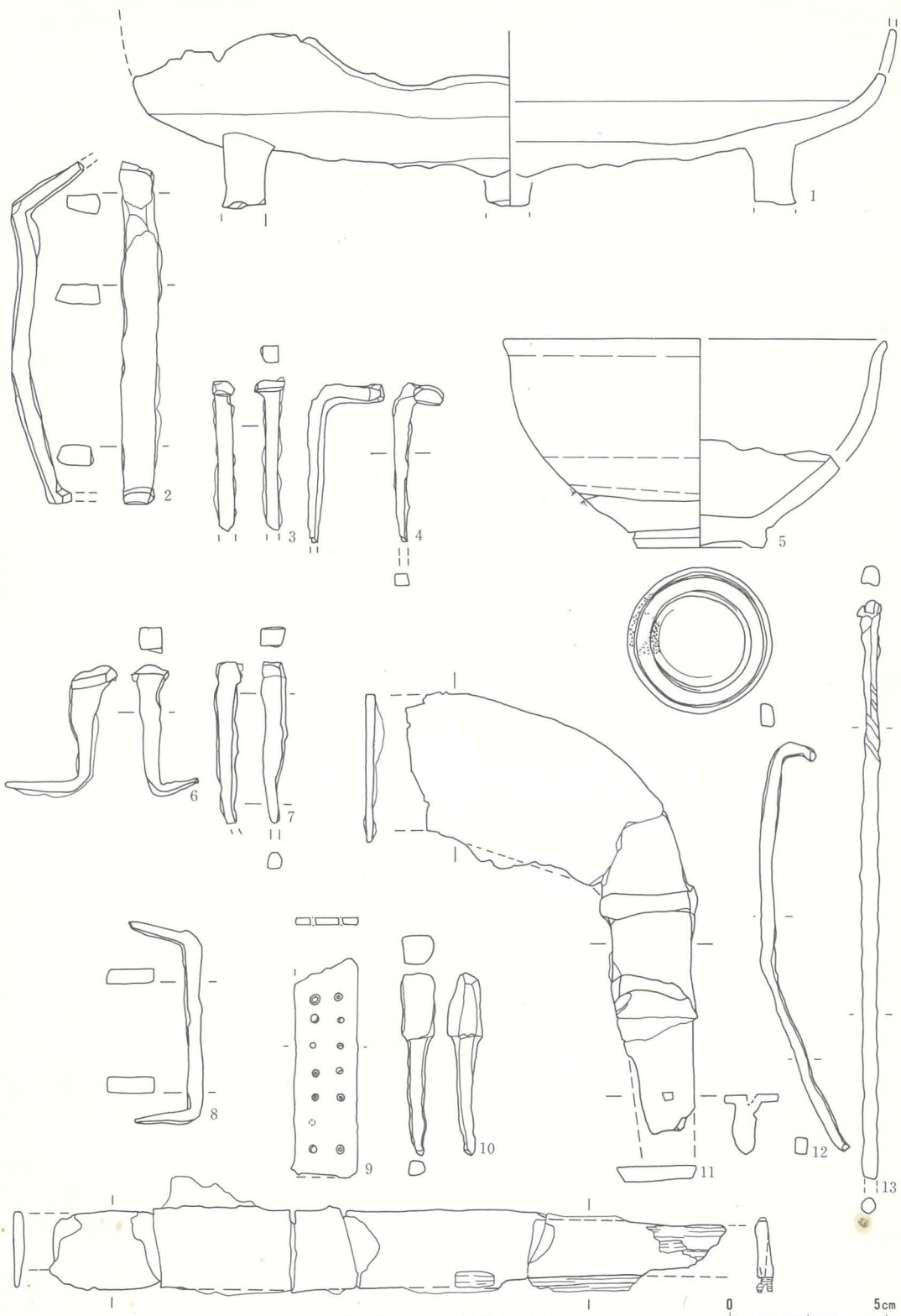
イ10YR	3/4	暗褐	焼土粒	C	ロームブロック少量	ソフト
ロ	3/4	褐	シルト			
ハ	3/4	暗褐	焼土、ブロック共に多量	C		
ニ	3/4	暗褐	焼土粒	基盤礫	ロームブロック	
ホ	3/4	暗褐			C ソフト	
ヘ	3/4	黒褐			ローム粒	火山灰 C
ト	3/4	暗褐			砂粒微量	粘性あり
チ	3/4	暗褐			礫粒	C
リ	3/4	暗褐			ロームブロック (リ)	より明るいソフト
ヌ	3/4	暗褐			ローム粒	C
ル	3/4	暗褐			砂粒	C
ヲ	3/4	褐	砂粒	シルト		ヤヤハード
ワ	3/4	暗褐			C	微量 やや粗
カ	3/4	暗褐	砂粒微量			
コ	3/4	黒褐	焼土粒	C	ソフト	
ク	3/4	暗褐	焼土粒	C	ローム粒	
ケ	3/4	暗褐	焼土粒微量	C	粘性あり	
コ	3/4	暗褐	ロームブロック	C	湿性あり	
ク	3/4	暗褐	ローム粒微量	土器1コ	シルト	ソフト
ケ	3/4	褐	ロームブロック			粘性あり
ナ	3/4	暗褐			ローム粒 (ム)	よりCが少ない ソフト
ラ	3/4	暗褐			ロームブロック	ソフト
ム	3/4	暗褐			ローム粒	ソフト
ウ	3/4	暗褐			ロームブロック	ややハード

キ	3/4	暗褐	焼土ブロック	基盤礫	C	ロームブロック	ソフト
ノ	3/4	暗褐	焼土粒	礫粒	ローム粒	C	
オ	3/4	暗褐			C微量		
カ	3/4	暗褐			ロームブロック	ソフト	
ケ	3/4	暗褐			ローム粒 (ク)	よりソフト	
コ	3/4	暗褐			ロームブロック	ソフト	
ク	3/4	暗褐	焼土ブロック		基盤礫	ソフト	
ケ	3/4	暗褐	焼土40%	炭化物			
コ	3/4	暗褐	焼土粒	ロームブロック1~2コ	C	ソフト	
ク	3/4	暗褐	焼土粒	ローム粒	C	5人3cm大	ソフト
ケ	3/4	暗褐			基盤礫粒	ソフト	ロームブロック
コ	3/4	暗褐					
ク	3/4	暗褐	礫粒ブロック	C	焼土粒	ロームブロック	ソフト
ケ	3/4	暗褐					(ア)よりやや明るいソフト
コ	3/4	暗褐	焼土粒	C	ローム粒		
ク	3/4	暗褐				ローム多量	
ケ	3/4	暗褐					
コ	3/4	暗褐	焼土粒	ロームブロック	C	ソフト	
ク	3/4	暗褐			礫粒	ソフト	
ケ	3/4	暗褐			ローム粒		
コ	3/4	暗褐			基盤礫	C	ソフト
ク	3/4	暗褐			土器		ハード

第25図 第45号竪穴遺構平面図



第26図 第43、44、46、47号竖穴遺構平面図



第27図 豎穴遺構出土遺物

b 土壌

55基の土壌が見つまっている。未整理の部分が多く全容を明らかにできない。径が90~135cmの円形が多く、深さは30~150cm程と差異がある。

土壌7(第28図):17M22区に位置する。135×130cm、深さ105cm程を測る。本遺跡で見られる土壌の一類型となるもの。III層下位に掘り込みがある。覆土中から釘3点鍛造剥片1.8gなどが出土している。

土壌9(同):18M1区に位置する。130×115cm、深さ80cm程である。覆土中から1.9gの鍛造剥片が出土している。鍛冶・鋳造跡内に位置すると推され、その作業に関連する遺構とも考えられるが、一帯に分布する砂利層が覆土内に見られるなど今少し検討しなければならない。鍛造剥片もこの砂利層中の出土とも推される。

土壌13(第29図):18L1区に位置する。110×110cm、深さ20~30cm、鍛造剥片2.8g、釘1点などが出土する。溝5より新しい。

土壌17(同):18M16区に位置する。土壌7と同種か。110×110cm深さ100cm程である。同心円状の土の堆積を見る。

土壌18(第30図):18N5区に位置する。100×100cm、深さ25~45cm。3.8gの鍛造剥片が得られている。土壌9と同じく覆土中に鍛冶・鋳造跡全体に分布する砂利層の一部がみられることから鍛造剥片もこの覆土中からの出土とも考えられる。

土壌20(同):18L11区に位置する。120×90cm。深さ40cm程である。径20cm前後の礫が集積する。粘土の固い層が中段に厚く堆積する。鉄鍋・小札釘が出土している。

土壌31(同):18M25区に位置する。120×110cm。深さ150cm程である。中央部が外周に比べやや軟らかな土の堆積をしている。墳底20cm余りに曲物杵が据えられていた。この杵の下位から墳底には1~3cm大の砂利が7~8cm敷きつめられていた。鍋の小片(1.6g)と釘7点が出土している。

土壌42(同):18N15区に位置する。平坦面北西端を廻る柵列の外に位置している。鍛造剥片1.2gが出土している。

土壌の一部について略述したが、土壌内から採取した土壌サンプルの洗浄、フローティング結果や他の遺物の出土状況、土層の堆積等未整理の状況にある。土壌19、24、30、38等からは鉄鍋の小

片(6.7~151g)が、土壌43の墳底からは内耳鉄鍋片(304.4g)が出土している。釘は土壌の4、8、10、14、19、22、23、24、38、39から1~4本(2.2~12.4g)出土している。完掘してはいないが、47、48からの各33、18本(77.6、18.0g)の出土が際立っている。小札は14、19、24から1、2点出土する。鍛造剥片は6、14、15、19、24、48から0.6~3.6g出土している。

土壌31の墳底に砂利が敷かれ、曲物杵が据えられていたことは、井戸としての使用が考えられそうである。他の類似の形態の物も併せ保水性、建物との位置関係など更に検討したい。

c 溝

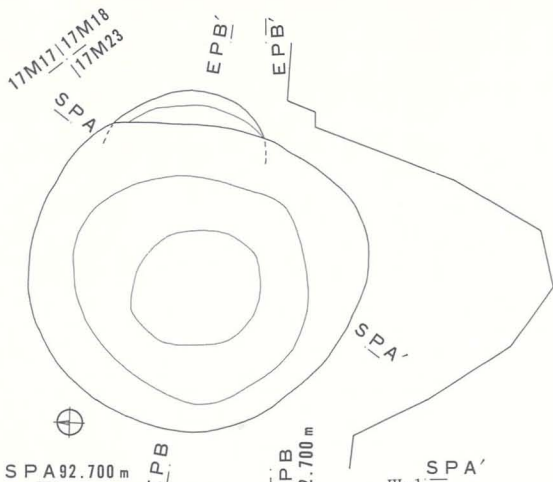
調査区北東部に18M6~18L1に至る塀様の柱列が続く。この柱列に平行して北東側に段がつくられ段と柱列で前後の区画が強く区分されている。この柱列の南西の平坦面に建物敷地を区画する地割の溝が作られている。東西に長軸を持つ長方形が基本形であるが、作りかえや削平の為もあってか必ずしも四辺が揃わないし建物の配置と一致するものも少ない。18M20区では東西8.8m南北6m約53m²程の区画である。なお18M1区及び17M21区の土壌2から東へ溝跡が僅かに見つかっているが、これらの延長が18M19区の溝につながり、地割がつくられるかとも推している。溝の中は35~50cm、深さは10~40cm程で、溝の中には径7~10cm程の小柱穴が不規則に並んでいる。

(8) 柵列

台地西側の端部に巾30cm、深さ10~50cmの溝がつくられている。溝の中には径10cm前後の柱穴が5~20cm間隔で並んでいる。台地の端部を廻る柵列で前年度調査区で検出されたものに連続するものである。柵列の上に10cm前後の礫が集積しているところがある。前年度の調査区にも見られたが、館の時期の集石とする確証は得られていない。

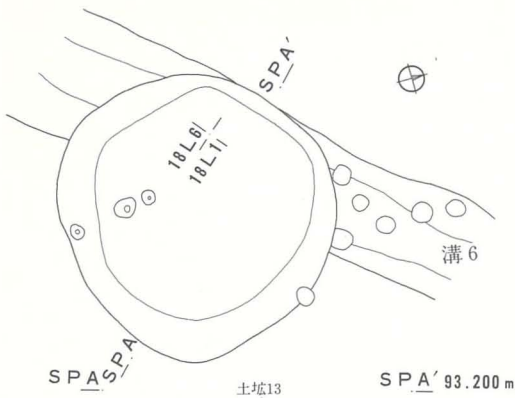
(9) 遺物

出土遺物の概要を表として末尾に付すとともに主な遺物を31、32図に示した。31図は、土壌、柱穴覆土からの出土、32図は包含層からの出土遺物である。31図10、11は鉄製品で土壌23、31出土。刺突具の類か。13~15は土壌47出土。木箱等の存在が推される。21は鉄製の容器か。32図13は火打金、27は太刀柄頭、28は六器台。又23の金鍔は近代のものかも知れない。



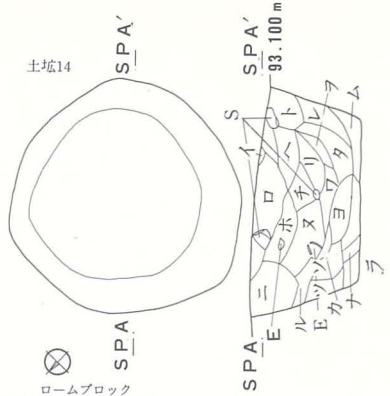
17M22土壌7 (A-A') 土層堆積

III-1 10Y R 1/2黄褐	礫粒 C
// 2 // 1/2褐	小礫 // 焼土粒
// 3 // 1/2暗褐	焼土粒微量 ソフト
土壌7 I 10Y R 1/2黄褐	礫粒 C 玉砂利 小・中・礫
ロ // 1/2暗褐	焼土粒 ローム粒微量 ソフト
ハ // 1/2褐	礫粒 玉砂利
ニ // 1/2黄褐	小礫 C ローム
ホ // 1/2黄褐	礫粒 基盤礫 C ハード
ヘ // 1/2暗褐	ローム C
ト // //	玉砂利 焼土粒微量
チ // 1/2褐	礫粒 焼土粒 C微量 ソフト
リ // //	玉砂利 // C ローム ソフト
ヌ // 1/2褐	// // // //
ル // 1/2暗褐	// // // //
ヲ // 1/2暗褐	// C ローム ソフト
ワ // 1/2黄褐	// 焼土粒 C ローム ハード
カ // 1/2暗褐	焼土粒 C微量
ヨ // 1/2黄褐	玉砂利微量
タ // 1/2暗褐	玉砂利 C ローム粒 ソフト
レ // 1/2黄褐	礫粒 小礫 C //
ソ // 1/2黄褐	// C微量 焼土粒
ツ // //	// 玉砂利 //
ネ // //	小礫 // C
ナ // 1/2黄褐	// 玉砂利微量 微量 C ローム
ノ // 1/2暗褐	焼土粒微量 C ソフト
ム 7.5Y R 1/2黄褐	玉砂利微量 ザラザラ
ウ // 1/2黄褐	// //
キ 10Y R 1/2黄褐	礫粒 ベトベト
ク // //	// ザラザラ
ケ	
コ	
サ	
シ	
ス	
セ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	
ヌ	
ル	
ヲ	
ワ	
カ	
ヨ	
タ	
レ	
ソ	
ツ	
ネ	
ナ	
ム 7.5Y R 1/2黄褐	
ウ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
サ	
シ	
ソ	
タ	
チ	
ツ	
テ	
ト	
ナ	
ニ	
ホ	
ヘ	
ト	
チ	
リ	



18L1 土壇13、溝6 土層堆積

土壇13イ10Y R 1/4暗褐	礫粒	ローム粒	玉砂利	ソフト
ロ 1/4	ロームブロック	(1cm大) 2、3コ		
ハ 1/4	ローム少量			
ニ 1/4	礫粒	ローム粒	玉砂利	染濁1 (E-1)
ホ 1/4				(イ) よりハード
ヘ 1/4	ロームブロック	(1cm大) 1コ		
ト 1/4	ローム粒	礫粒微量		
チ 1/4				C 湿性
溝 6イ10Y R 1/4褐	ローム	C	粘性	
ろ 1/4			(い) よりソフト	
は 1/4	礫粒微量	C	ソフト	
に 1/4	礫粒	ローム(は)より少ない		
ほ 1/4	ローム	C微量		
へ 1/4	ローム粒微量			
小柱穴110Y R 1/4暗褐	ローム	C		

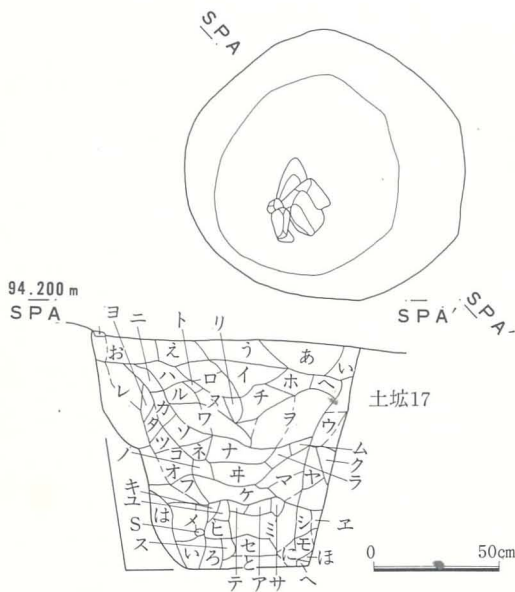


18L6 土壇14
土層堆積

土壇14イ	ロームブロック	礫粒	ローム粒	玉砂利	C	ハード
ロ10Y R 1/4暗褐						
ハ 1/4	ローム粒 5%				C	シルト
ホ 1/4	礫粒	ローム粒	C 2cm角 1コ	越前掘鉢1コ (E-5)		
ヘ 1/4	ローム粒	玉砂利	C	火山灰	礫粒多くガラガラ	
ト 1/4	礫粒微量	C微量	火山灰10%	玉砂利	ソフト	
リ 1/4	礫粒	ローム微量	C	玉砂利		
ル 1/4	10Y R 1/4暗褐				C 1cm角 (青礫1個体3片E-3・4)	ダンゴ状
ヲ 1/4	ローム粒20%					
チ 1/4	ローム3%				C	
ヲ 1/4	ローム粒	C				
カ 1/4	黒褐				C	粘性
タ 1/4	10Y R 1/4暗褐				ローム粒30%	粘性
ト 1/4	10Y R 1/4暗褐				火山灰	粘性ベトベト
レ 1/4	10Y R 1/4暗褐				ローム粒	C 火山灰微量
ソ 1/4	10Y R 1/4暗褐				ローム20%	C
ツ 1/4	10Y R 1/4暗褐				ローム	Cシルト*
ナ 1/4	10Y R 1/4暗褐				ローム粒	C微量
ナ 1/4	10Y R 1/4暗褐				火山灰微量	C
ナ 1/4	10Y R 1/4暗褐				火山灰10%	ローム粒微量
ム 1/4	10Y R 1/4暗褐				ローム粒	C微量

18M16 土壇17東西ライン北壁土層堆積

土壇17ア10Y R 1/4褐	礫粒	焼土粒	ローム	C少量	火山灰	密	ややハード
イ 1/4						(土器1コ)	
う 1/4							ややソフト
え 1/4							ソフト
お 1/4			ローム	C少量	ソフト		
イ10Y R 1/4黒褐	礫粒	焼土粒	ローム	C少量	ソフト		
ロ 1/4							
ハ 1/4							
ニ 1/4				C少量			
ホ 1/4	礫粒						
ヘ 1/4							
ト 1/4			ローム				
チ 1/4							
リ 1/4			C微量	ローム	ソフト	(チ)よりやや暗い	
ヌ 1/4	礫粒	焼土粒	C微量				
ル 1/4			ローム	C微量	ソフト		
ヲ 1/4			ローム	C少量	ソフト	やや密	
ヲ 1/4			ローム多量		ソフト		
カ 1/4			C微量				
カ 1/4		焼土粒	C微量	ややハード			
カ 1/4				ソフト			
レ 1/4			ローム	C微量	ややハード		
レ 1/4	シルト	砂	C微量	湿性	ソフト		
ツ 1/4	礫粒	焼土粒		ややハード	密		
ネ 1/4			C微量	ローム	ソフト		
ナ 1/4				ローム多量	ソフト		
ナ 1/4			C微量	ローム多量	ソフト		
ム 1/4				ソフト			
ウ 1/4	礫粒	焼土粒	ローム	C微量	ややハード		
キ 1/4	火山灰多量	C微量	ソフト				
ノ 1/4	シルト	焼土粒					
オ 1/4	礫粒	焼土粒	C微量	ややソフト			
ク 1/4				ローム	ハード		
マ 1/4			C微量	ソフト			
ヤ 1/4			火山灰多量				
ケ 1/4	シルト	C多量					
フ 1/4	礫粒	(土器1コ)	C微量	赤味強い	ソフト		
フ 1/4	火山灰	ソフト	粗				
フ 1/4	アにふい黄褐	ベースト状					
エ 1/4	ア5Y R 1/4暗褐	(木質の腐蝕状) 湿性					
エ 1/4	サ10Y R 1/4暗褐	火山灰	ベースト状	湿性			
エ 1/4	キ2.5Y R 1.7/1赤黒	ベースト状					
エ 1/4	エ10Y R 1/4暗褐	火山灰	ベースト状	湿性			
エ 1/4	メ10Y R 1/4	礫粒	ガラガラ				
ミ 1/4			1mm大の砂粒	微量	湿性		
シ 1/4			ベースト状				
エ 1/4			礫粒	ガラガラ			
ヒ 1/4			礫粒微量	火山灰	ベースト状		
モ 1/4							
セ7.5Y R 1/4暗褐	(木質の腐蝕状) 木質部わずかに残る						
ス10Y R 1/4暗褐	ベースト状						
イ 1/4	礫粒	砂粒微量					
ラ2.5Y R 1/4暗褐	(木質の腐蝕状)						
ハ10Y R 1/4暗褐	焼土粒微量	ダンゴ状					
ニ 1/4	ベースト状						
ハ 1/4	礫粒						
ヘ 1/4	礫粒	微量	火山灰				
ト 1/4							



第29図 土壇13、14、17平面図他

18N5土垢18土層堆積

III-110Y R 1/4 ~ 1/2	にぶい黄褐
土垢18イ10Y R 1/4	褐
ロ	1/4 ~ 1/2 褐
ハ	1/4 暗褐
ニ	1/4 1/2 褐
ホ	1/4 ~ 1/2 褐
ヘ	1/4 黄褐

シルト	焼土粒	ローム	玉砂利少量	C微量	やや密
礫粒	全面ローム	ソフト			
焼土粒	ローム	玉砂利少量	C微量	ソフト	
					(ハ)より暗い
全面ローム					
全面玉砂利多量					

18N14・15土垢42土層堆積

土垢42イ	10Y R 1/4 褐	7.5Y R 1/4 褐
ロ	1/4	1/4
ハ	7.5Y R 暗褐	7.5Y R 1/4 褐
ニ	10Y R 1/4 褐	
ホ		
ヘ		
ト		
チ	1/4 ~ 1/2 褐	

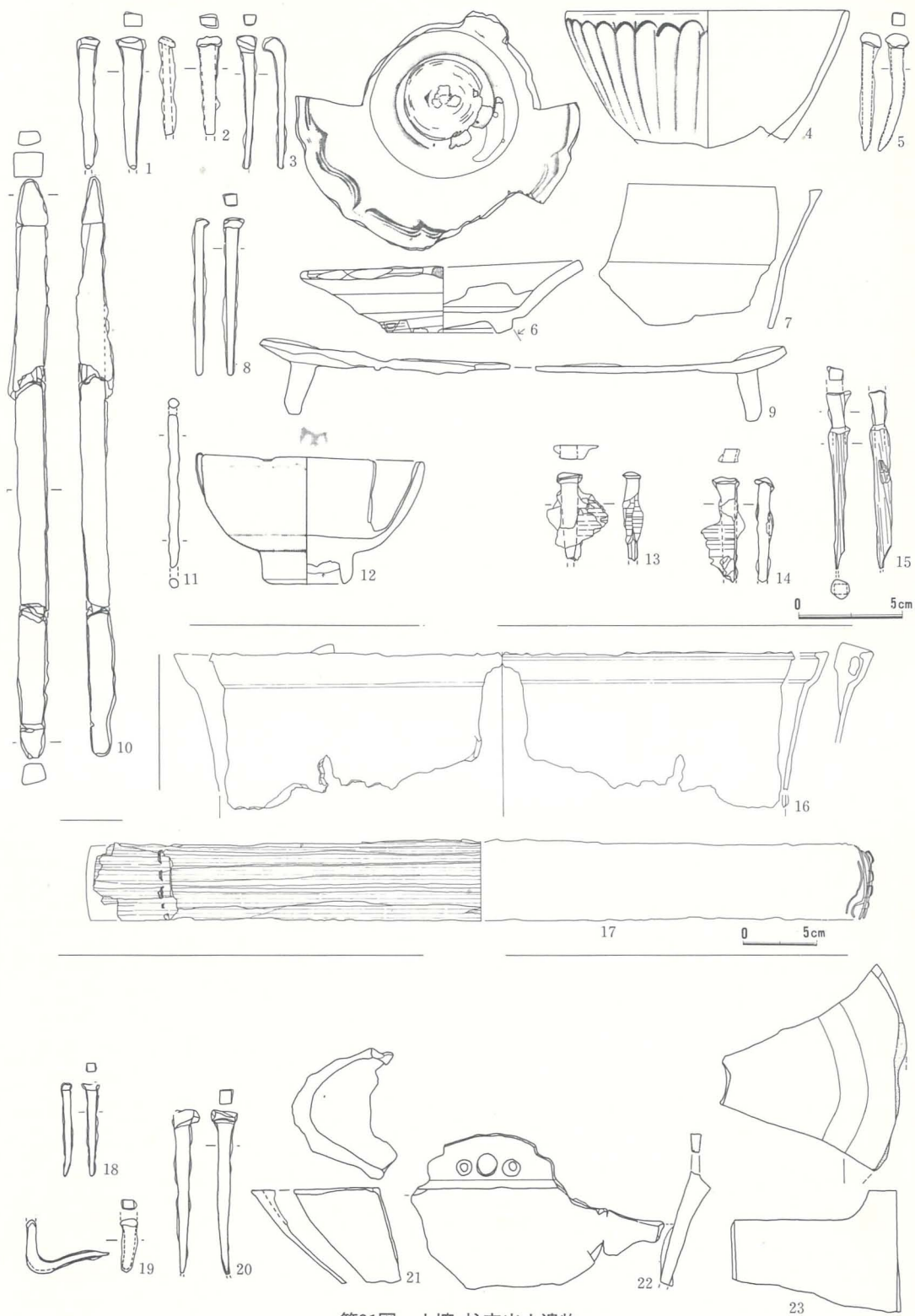
ローム粒	砂粒微量
ローム粒微量	
C微量	鉄の腐はい様子
ローム粒微量	シルト
(ロ)より少し暗いソフト	
ローム粒	砂粒微量
(ハ)より湿性	
少々粘性	

土垢20東壁土層堆積

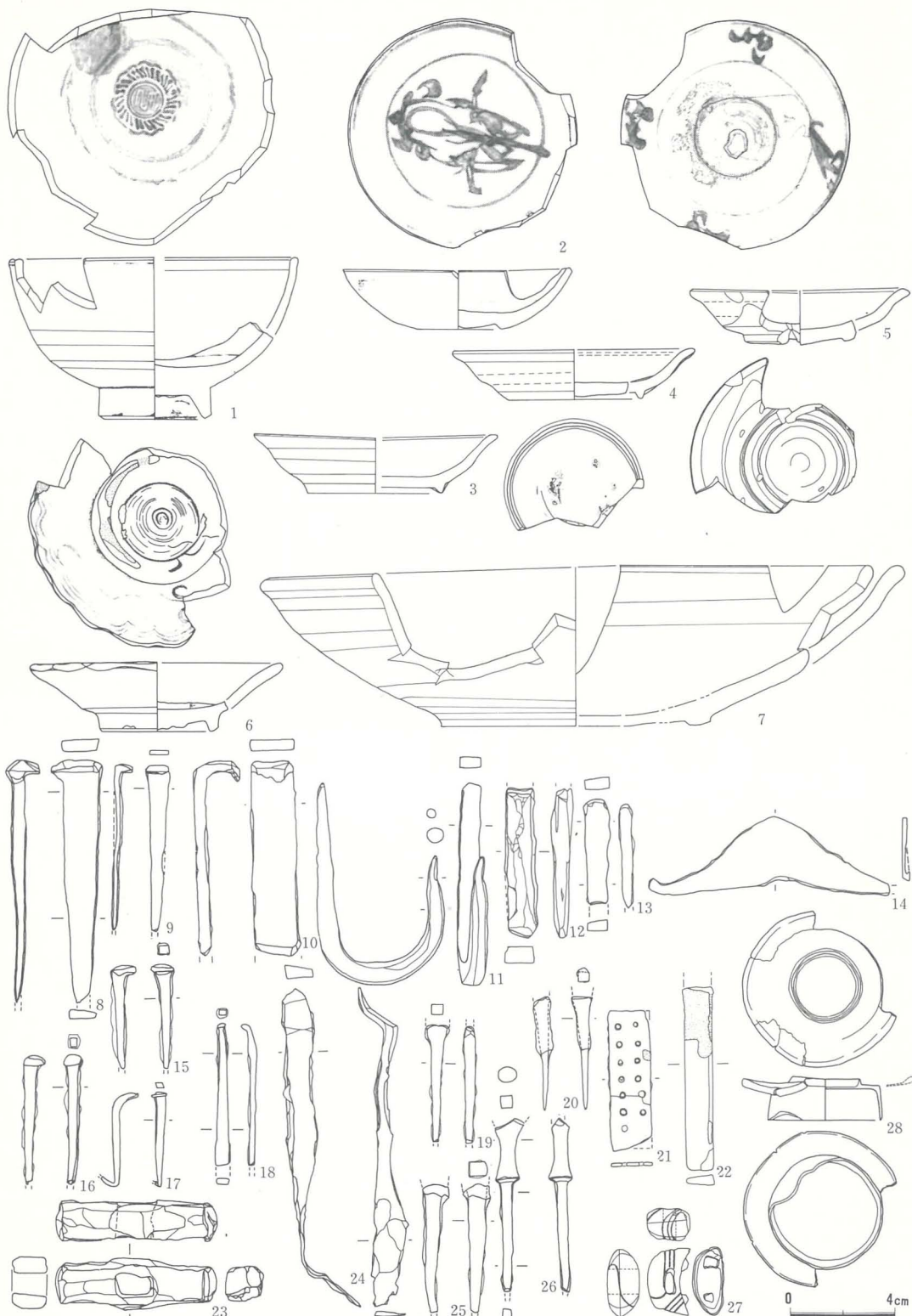
III-110Y R 1/4	にぶい黄褐	ローム粒	ややハード
土垢20イ10Y R 1/4	暗褐	焼土粒	砂利 (ロ)よりややハード
ロ	1/4		ローム粒 C
ハ	1/4		
ニ	1/4	ローム粒少量	ソフト
ホ	1/4	礫粒 (ニ)よりややハード	
ヘ	1/4	ローム70%	
ト	1/4	ローム粒	ややソフト
チ	1/4		少量 (ハ)よりややハード
リ	1/4		微量 ソフト
ヌ	1/4	礫粒	ローム粒 C (ロ)よりややソフト
ル	1/4		
ヲ	1/4	焼土粒	C (ヌ)よりソフト
ワ	1/4		ローム粒 砂利少量 (ヌ)よりソフト
カ	1/4		(ヨ)よりややハード
コ	1/4	C多い	
サ	1/4	ロームブロック	(ヨ)よりややハード
シ	1/4	ローム粒	C 粘土混入
ソ	1/4		焼土粒微量
ツ	1/4		粘性
テ	1/4	ロームブロック30%	
ネ	1/4	ローム粒	礫粒少量
ナ	1/4	ロームブロック30%	(ワ)より粘性
ラ	1/4	ロームブロック	火山灰多量
ウ	1/4	全面ローム	
エ	1/4	ロームブロック80%	(ヲ)より粘質
キ	1/4	ローム粒	火山灰多量 ソフト
ク	1/4	ロームブロック	ややソフト
ケ	1/4	礫粒	ローム粒 火山灰多量 (ナ)よりハード
コ	1/4	ロームブロック	C (オ)よりややハード
サ	1/4	C	火山灰 砂少量 サラサラソフト
シ	1/4		ローム粒 (オ)よりソフト
ソ	1/4		粘質
ツ	1/4		ソフト粗

18M25土垢31北壁土層堆積

土垢31イ10Y R 1/4	にぶい黄褐	礫粒	焼土粒	C少量	ローム	火山灰多い
ロ	1/4					火山灰 (イ)より多い
ハ	1/4			微量		火山灰多い
ニ	1/4					ローム多量
ホ	1/4				C微量	ローム ややソフト
ヘ	1/4					ローム
ト	1/4					ローム多い ややハード
チ	1/4					ローム C微量
リ	1/4					ローム
ヌ	1/4		焼土粒	C少量	ソフト	
ル	1/4					骨 ややハード
ヲ	1/4		C微量	全面ローム	ハード	
ワ	1/4		焼土粒	ローム	ややハード	
カ	1/4				C微量	湿性
コ	1/4				C少量	ソフト
サ	1/4					ハード
シ	1/4				ローム	C微量 湿性
ソ	1/4				礫粒	ローム C微量 湿性
ツ	1/4					全面ローム ハード
テ	1/4					ローム多い C微量
ネ	1/4					焼土粒
ナ	1/4					ローム C少量 ソフト
ラ	1/4					ローム C少量 ソフト
ウ	1/4					ローム C少量 ソフト やや粗
エ	1/4					全面ローム ハード
キ	1/4					焼土粒
ク	1/4					ローム C少量 ソフト
ケ	1/4					ローム C少量 ソフト
コ	1/4					ローム C少量 ソフト
サ	1/4					ローム C少量 ソフト
シ	1/4					ローム C少量 ソフト
ソ	1/4					ローム C少量 ソフト
ツ	1/4					ローム C少量 ソフト
テ	1/4					ローム C少量 ソフト
ネ	1/4					ローム C少量 ソフト
ナ	1/4					ローム C少量 ソフト
ラ	1/4					ローム C少量 ソフト
ウ	1/4					ローム C少量 ソフト
エ	1/4					ローム C少量 ソフト
キ	1/4					ローム C少量 ソフト
ク	1/4					ローム C少量 ソフト
ケ	1/4					ローム C少量 ソフト
コ	1/4					ローム C少量 ソフト
サ	1/4					ローム C少量 ソフト
シ	1/4					ローム C少量 ソフト
ソ	1/4					ローム C少量 ソフト
ツ	1/4					ローム C少量 ソフト
テ	1/4					ローム C少量 ソフト
ネ	1/4					ローム C少量 ソフト
ナ	1/4					ローム C少量 ソフト
ラ	1/4					ローム C少量 ソフト
ウ	1/4					ローム C少量 ソフト
エ	1/4					ローム C少量 ソフト
キ	1/4					ローム C少量 ソフト
ク	1/4					ローム C少量 ソフト
ケ	1/4					ローム C少量 ソフト
コ	1/4					ローム C少量 ソフト
サ	1/4					ローム C少量 ソフト
シ	1/4					ローム C少量 ソフト
ソ	1/4					ローム C少量 ソフト
ツ	1/4					ローム C少量 ソフト
テ	1/4					ローム C少量 ソフト
ネ	1/4					ローム C少量 ソフト
ナ	1/4					ローム C少量 ソフト
ラ	1/4					ローム C少量 ソフト
ウ	1/4					ローム C少量 ソフト
エ	1/4					ローム C少量 ソフト
キ	1/4					ローム C少量 ソフト
ク	1/4					ローム C少量 ソフト
ケ	1/4					ローム C少量 ソフト
コ	1/4					ローム C少量 ソフト
サ	1/4					ローム C少量 ソフト
シ	1/4					ローム C少量 ソフト
ソ	1/4					ローム C少量 ソフト
ツ	1/4					ローム C少量 ソフト
テ	1/4					ローム C少量 ソフト
ネ	1/4					ローム C少量 ソフト
ナ	1/4					ローム C少量 ソフト
ラ	1/4					ローム C少量 ソフト
ウ	1/4					ローム C少量 ソフト
エ	1/4					ローム C少量 ソフト
キ	1/4					ローム C少量 ソフト
ク	1/4					ローム C少量 ソフト
ケ	1/4					ローム C少量 ソフト
コ	1/4					ローム C少量 ソフト
サ	1/4					ローム C少量 ソフト
シ	1/4					ローム C少量 ソフト
ソ	1/4					ローム C少量 ソフト
ツ	1/4					ローム C少量 ソフト
テ	1/4					ローム C少量 ソフト
ネ	1/4					ローム C少量 ソフト
ナ	1/4					ローム C少量 ソフト
ラ	1/4					ローム C少量 ソフト
ウ	1/4					ローム C少量 ソフト
エ	1/4					ローム C少量 ソフト
キ	1/4					ローム C少量 ソフト
ク	1/4					ローム C少量 ソフト
ケ	1/4					ローム C少量 ソフト
コ	1/4					ローム C少量 ソフト
サ	1/4					ローム C少量 ソフト
シ	1/4					ローム C少量 ソフト
ソ	1/4					ローム C少量 ソフト
ツ	1/4					ローム C少量 ソフト
テ	1/4					ローム C少量 ソフト
ネ	1/4					ローム C少量 ソフト
ナ	1/4					ローム C少量 ソフト
ラ	1/4					ローム C少量 ソフト
ウ	1/4					ローム C少量 ソフト
エ	1/4					ローム C少量 ソフト
キ	1/4					ローム C少量 ソフト
ク	1/4					ローム C少量 ソフト
ケ	1/4					ローム C少量 ソフト
コ	1/4					ローム C少量 ソフト
サ	1/4					ローム C少量 ソフト
シ	1/4					ローム C少量 ソフト
ソ	1/4					ローム C少量 ソフト
ツ	1/4					ローム C少量 ソフト
テ	1/4					ローム C少量 ソフト
ネ	1/4					ローム C少量 ソフト
ナ	1/4					ローム C少量 ソフト
ラ	1/4					ローム C少量 ソフト
ウ	1/4					ローム C少量 ソフト
エ	1/4					ローム C少量 ソフト
キ	1/4					ローム C少量 ソフト
ク	1/4					ローム C少量 ソフト
ケ	1/4					ローム C少量 ソフト
コ	1/4					ローム C少量 ソフト
サ	1/4					ローム C少量 ソフト
シ	1/4					ローム C少量 ソフト
ソ	1/4					ローム C少量 ソフト
ツ	1/4					ローム C少量 ソフト
テ	1/4					ローム C少量 ソフト
ネ	1/4					ローム C少量 ソフト
ナ	1/4					ローム C少量 ソフト
ラ	1/4					ローム C少量 ソフト
ウ	1/4					ローム C少量 ソフト
エ	1/4					ローム C少量 ソフト
キ	1/4					ローム C少量 ソフト
ク	1/4					ローム C少量 ソフト
ケ	1/4					ローム C少量 ソフト
コ	1/4					ローム C少量 ソフト
サ	1/4					ローム C少量 ソフト
シ	1/4					ローム C少量 ソフト
ソ	1/4					ローム C少量 ソフト
ツ	1/4					ローム C少量 ソフト
テ	1/4					ローム C少量 ソフト
ネ	1/4					ローム C少量 ソフト
ナ	1/4					ローム C少量 ソフト
ラ	1/4					ローム C少量 ソフト
ウ	1/4					ローム C少量 ソフト
エ	1/4					ローム C少量 ソフト
キ	1/4					ローム C少量 ソフト
ク	1/4					ローム C少量 ソフト
ケ	1/4					ローム C少量 ソフト
コ	1/4					ローム C少量 ソフト
サ	1/4					ローム C少量 ソフト
シ	1/4					ローム C少量 ソフト
ソ	1/4					ローム C少量 ソフト
ツ	1/4					ローム C少量 ソフト
テ	1/4					ローム C少量 ソフト
ネ	1/4					ローム C少量 ソフト
ナ	1/4					ローム C少量 ソフト
ラ	1/4					ローム C少量 ソフト
ウ	1/4					ローム C少量 ソフト
エ	1/4					ローム C少量 ソフト
キ	1/4					ローム C少量 ソフト
ク	1/4					ローム C少量 ソフト
ケ	1/4					ローム C少量 ソフト
コ	1/4					ローム C少量 ソフト
サ	1/4					ローム C少量 ソフト
シ	1/4					ローム C少量 ソフト
ソ	1/4					ローム C少量 ソフト
ツ	1/4					ローム C少量 ソフト
テ						



第31図 土壌・柱穴出土遺物



第32図 調査区出土遺物

III 小 括

今年度の調査によって昨91年度調査で見つかった大型の建物等が立つ空間は更に南西に広がり、その境界は段と塀様の柱列によって明確に区分されることが明らかとなった。

この敷地の中央最奥部、段の直下で大きな井戸跡が見つかった。勝山館跡の水回りは寺沢地内の井戸跡、木樋を別とすれば長い間未解明のまま残されていた問題の一つであった。浪岡城や或は各地の街区等の調査での一単位毎に井戸が存在する例とは著しい差異であり、むしろこうした井戸の在り方の違いに勝山館の内部の特徴を見出すべきであろうとしてきたところである。本年度見つかった井戸がどこに帰属し、どのように使用されていたか、大型建物跡の立つ敷地内には井戸があるということを手懸かりに検討していくこととしたい。

次にこの同じ敷地内の北西隅で見つかった銅鑄造、或は鍛冶加工も含めた作業跡は全く新しい知見であった(註)。今年度調査区出土銅・鉄製品は別表の如く62(除銅銭)、1,131点であり、この地区で各半数前後が集中して出土している。宇野隆夫氏のご教示によればこの地区から出土した一枚のかわらけは、その特殊な性格からしてこの地区での加工作業の内容を示唆する特徴的な遺物であり、大型建物跡の立つ敷地の一隅にこの場があることの意味を端的に示す遺物ということになる。又内田俊秀氏のご教示によれば、この場での作業は春から夏の間ぐらゐの短期間・専業鑄物師等が来所の上行ったと考えるべき内容との事であるが、当地は7月頃までは南東の「ヤマセ」が連日のように続く所であり、この北西隅の位置は火災・異臭等を考慮した占地ということが出来る。こうした主要な建物、屋敷の画での鍛冶・鑄造・作業は鎌倉等本州の遺跡にも類例が見られるようである。他方鑄物師等の技術者が他所からの来訪であるとするならば、館内での需要に対する供給、或はそれらについての相互の情況(報)把握力等、その背景も考えていかなければならないが「志苔の鍛冶屋(村)」を挙げる迄もなく勝山館・周辺の技術も更に探ることが必要であろう。

土壌47から出土した釘に木質部が残存している

ことは土壌内に木箱等の入っていることを示している。半分は石敷遺構の下位になり、完掘するのは石敷遺構を撤去することにつながるため部分的調査にとどめて来たが、この石敷その物がこうした土壌を作った後にその上に作られたとするならば、その性格は根本から考え直す必要がでてくる。時には破壊につながることも経て性格の解明を行うことは調査者の義務であるのご教示を思い起こし、優柔を強く自省するところである。

段や石列で区切られた南西地区は一転して溝で地割された敷地に東西を長軸とする掘立柱と堅穴の建物が整然?と立ち並ぶ一帯である。

大型建物跡の周囲に堅穴建物がないことは、この建物の性格の一端を示すのであろう。焼失した堅穴建物跡の炭化材から壁板(体)の存在が知られ一、二床面に残る痕跡がそれと合致するらしいことが判り、その構造解明に新しい資料を提示し得た。

性格不明の土壌の一つで墳底に曲物杵が見つかり、10cm余の砂利が敷きつめられていた。最も考え易いのは井戸であろう。前述したところでもあるが、他の遺構との配置等も合わせ、勝山館跡の性格解明の一つとして検討することとしたい。

何れにしても出土資料と遺構の関係、遺構、遺物のそれぞれについての整理・分析が中途の状況にあり、十分な報告となし得ないことをお赦し願いたい。

註 本遺構の具体的様相の理解は、京都芸術文化大学内田俊秀助教授のご教示があつてはじめてできたことであった。記して感謝申し上げたい。なお下記文献を参考とした。

工藤清泰 浪岡城北館出土の鑄銅関係遺物について 浪岡城跡VII 1985

齋木秀雄 街なかの鍛冶屋と鑄物師

河野真知郎 武家屋敷によばれた鍛冶屋

(ともによみがえる中世3 1989)

五十川伸夫 古代・中世の鑄鉄鑄物 国立歴史民俗博物館研究報告46 1992

表3 出土遺物集計表 (陶磁器)

(総破片数)

器種	舶 載							国 産										小計	(破皿計)	合計	近世	総計
	中 国					朝鮮	瀬戸美濃		志野	唐津	土器	越前	珠洲	美濃	信楽							
	青磁	白磁	染付	赤絵	褐釉		灰釉	鉄釉														
碗	199	4	177	3		1	384	69	65			1						135	(519)	519	34	553
皿	98	231	507				836	455	18	12	4	28						517	(1,353)	1,353	9	1,362
盤	5		1				6												(6)	6		6
坏		8	2				10												(10)	10	1	11
香炉	2						2	2										2	(4)	4		4
播鉢														312				315		315	5	320
甕鉢					9		9						630					640		649	37	686
袋物		1				1	2		1									1		3	9	12
その他	2						2	13	4	1	1	1					1	21		23	15	38
総計	306	244	687	3		2	1,251	539	88	13	6	29	942		14		1,631	(1,887)	2,882	110	2,992	

表4 出土遺物集計表 (鉄製品他)

種別	数量	点数	重量(g)	備 考	種別	数量	点数	重量(g)	備 考	種別	数量	点数	重量(g)	備 考		
鉄	調理具	(169)	5,378.4		銅	武器・武具	40	102.4		銀	埴 塙	(9)		9片7個体		
	鍋	(162)	5,232.9			八 双 鋳	3	5.4			羽 口	(2)		2片1個体		
	火 箸	(4)	39.3			八 双 金物	2	7.4			鋳 型?	(1)		3片同1個体		
	火 打 金	(3)	106.2			靴	11	26.7			銅 地 金	1	97.3			
	建築・加工具	(643)	1,983.4			茶 縁 金 具	1	2.9			銅 滴	6	23.6			
	釘	(636)	1,804.1			目 貫	2	2.2			銅未製品	8	87.2			
	鋸	(5)	137.9			釘 (鋳)	9	6.3			銅 滓	2	37.7			
	鋳	(2)	41.4			小 柄	4	39.3			鉄 滓	29	589.2			
	武器・武具	272	1,818.1			鍛	1	5.8			鍛造剝片		46.0			
	小 札	(238)	1,110.5			宗 教 具	4	127.7	六割片同一個体		計	61	881.0			
製 品	刀 子	(4)	37.7		品	煙 管	1	3.8		骨	中 柄	1	2.3	被熱弯曲		
	小 刀	(24)	604.0			銅	83				刺 突 具	(1)	3.4	被熱弯曲・		
	鏃	(6)	65.9			そ の 他	17	97.8	用途不明		不 明	20	3.7	長さ11.5cm		
	漁撈・狩猟具	2	78.5			計	145	(331.7)			計	22	9.4	中柄又は刺突具		
	刺 突 具	1	8.4			角 器	陶 錘	9			9片8個体	土	陶 錘	9		9片8個体
	鈎	1	70.1				中 柄	1	2.3		被熱弯曲		そ の 他	3		鋳 型?
	農 具 ?	(12)	203.3				計	22	9.4				計	12		
	鎌	(3)	157.8			製 品	陶 錘	9			9片8個体	品	計	12		
	縮 金 具	9	45.5				刺 突 具	(1)	3.4		被熱弯曲・		計	12		
	不 明	33	431.6				不 明	20	3.7		長さ11.5cm		計	12		
合 計	1,131	9,893.3		計	22	9.4		計	12							

IV 保存処理

1. 木製品

今年度は昭和63年度までにPEG含浸処理を完了した木製品541点をエタノールによる表面処理、66点はPEG含浸完了後、エタノールによる表面処理を行った。処理の内訳は箸、板材、柁、土葬墓棺材等である。

2. 鉄製品

69点の処理を行った。従来通り錆除去、エタノール脱水、パラロイドNAD-10のナフサ溶液20～30%による減圧含浸、接合等を行った。処理

の内訳は釘、鍋、小札等である。

3. 銅製品

2430点の処理を行った。メス等による錆除去、エタノール脱水後ベンゾトリアゾールのエタノールの2～3%溶液による減圧含浸処理を行なった。また特に脆弱化している遺物についてはその後パラロイドNAD-10の30%ナフサ溶液による減圧含浸を行なった。処理の内訳は銭、小柄等である。

V まとめ

平成2年度、3年度の遺構確認調査で従来の勝山館跡ではみられなかった大型の建物跡の存在が明らかとなった。殊に平成3年度検出の建物跡については勝山館跡の建築遺構の指導をお願いしている文化学院の鈴木亘先生から「新羅之記録」にある「客殿」に比し得る建物の可能性がありそうであるとのご教示を頂戴した。

今年度の調査によって、この大型の建物跡の建てられる一画は段と柱列で明確に区切られていることが明らかとなった。その位置は前年度調査区範囲から更に4m前後南西寄りに位置していた。北東及び北西を第二平坦面端部の柵列跡まで、南東部を92年度調査区との境の段、溝とするとその面積は約1000㎡にもなる。

しかも今年度調査したこの地区の南西端一帯には、井戸跡、竪穴状土壇・鍛冶・鑄造作業場跡等今迄の調査では見られなかった類の遺構が分布していた。竪穴状の大型土壇は今少し検討を加えその性格に迫りたいと思うところである。井戸跡は上屋、作業位置、排水施設等を示す遺構等を明らかに出来ないままに終わってしまった。更にこの井戸跡をこの一画にのみ帰属させることとして、周辺の遺構の在り方に矛盾は生じないものなのか、なお留意しなければならない所である。鍛冶・鑄造作業場跡は、主要な建物の立つ区域内の一画にそれも周囲の影響を充分考慮して選地されて存在し、しかもそこに特殊な性格を付されることが多い"かわらけ"が出土したことによって、この地

区一帯の性格を照らし出す結果となったかと推しているところである。更に前年度検出した礎石・集石・遺構、小石の並ぶ配石遺構等の性格も考えて行かなければならない。特に礎石・集積遺構の下位に土壌が一部見つかりそこから木質部の残存付着した釘がまとまって出土したことは、両者が一体の物であるとしたならば、この礎石建物跡の性格に大きく関わってくることであり、調査そのものの不足を示すこととなった。又、こうしたことから前年度想定した建物跡についても、再度検討を加える必要のあることは言うまでもない。

この地区を画する段、柱列の存在はこの区画に強い意識の存在することを示すものである。又この画線が南東の旧道跡とどのような位置関係にあるのか、南西部の次の区画との取り付け方、踏み石状の配石、井戸跡との関係等、未解決の問題を残すところとなっている。礎石列と思われるものも規模等を把握することはできなかった。

段・柱穴列南西の調査区は、敷地を画する溝によって囲まれた長方形の溝がありそこに掘立柱の建物跡、竪穴建物跡が相互に重複と建替えを経ながら存在することが想定されるところとなったが、掘立柱の建物と竪穴の建物が溝で囲まれた同一の区画内に同時に存在するというものでは必ずしも無さそうである。むしろ掘立柱の建物跡とそれと対をなす(付属する)竪穴建物跡があって、一つの地割りが形成されているという様子が想定できそうである。勿論更に土壇等の類が加わるこ

ととなるであろう。

掘立柱の建物は3×4、3×5間等を基本とする例が多いようであるが3×3、2×3間等の一室を想定できそうなことは、かつての館神八幡宮跡北東の段状の地割内とは、柱間寸法も含め大きく異ると推されるところである。付言すればここでの掘立柱と竪穴の建物跡との関係も今年度調査区に近いものとした方が良いのかも知れない。

竪穴の建物跡は45号竪穴の焼失材と他の竪穴の床面の痕跡から、縦の壁（板）材のあったことが推測できそうである。又茅の類を屋根又は壁に使用していることも推される。昭和63年度調査時の焼失竪穴建物跡の状況から鈴木先生が床の存在する可能性を指摘されており、次第に建物の様子が判ってきたと言えよう。

土壌に幾つかの類型のあることを想定していたが、その一つが井戸である可能性が強くなってきた。今後は同じような土層堆積を持つものの覆土中の遺物等は勿論、内部・底部等の土質・位置等を細かく検討し、明確にしていく必要がある。

柵列が台地の端部を一巡することはほぼ確かであろう。場所による作り変えの回数、柱位置・柱間等更に留意していきたいところである。

勝山館の様子が幾分見えて来そうにも思えるが遺構・遺物の分析は共に不十分のままであり、なお一層の努力を期さなければならない。

今年も多くの諸機関・諸先生、諸先輩の皆様からたくさんのご厚情を頂戴しながらご迷惑をおかけするばかりであった。甚だ勝手ながら増々のお力添えとご指導をお願い申し上げる次第である。

図 版



勝山館跡主体部全景（南西夷王山より）



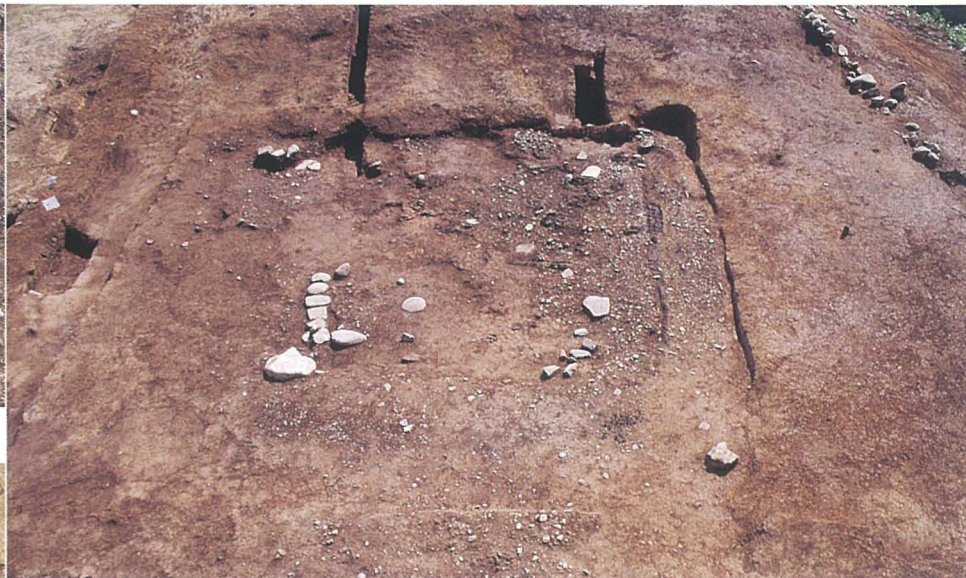
遺構検出状況（南東から）



遺物出土状況(青磁)



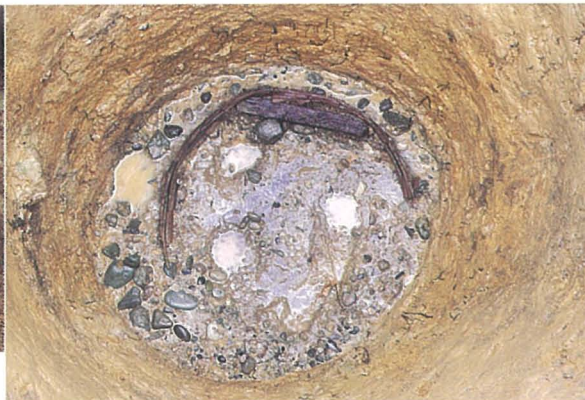
鍛冶・鑄造跡出土状況(銅地金・羽口)



鍛冶・鑄造跡(上)
第45号 竪穴建物跡(下)



遺物出土状況(染付)



土壇41 壇底(上)

井戸跡上部石積・遺物

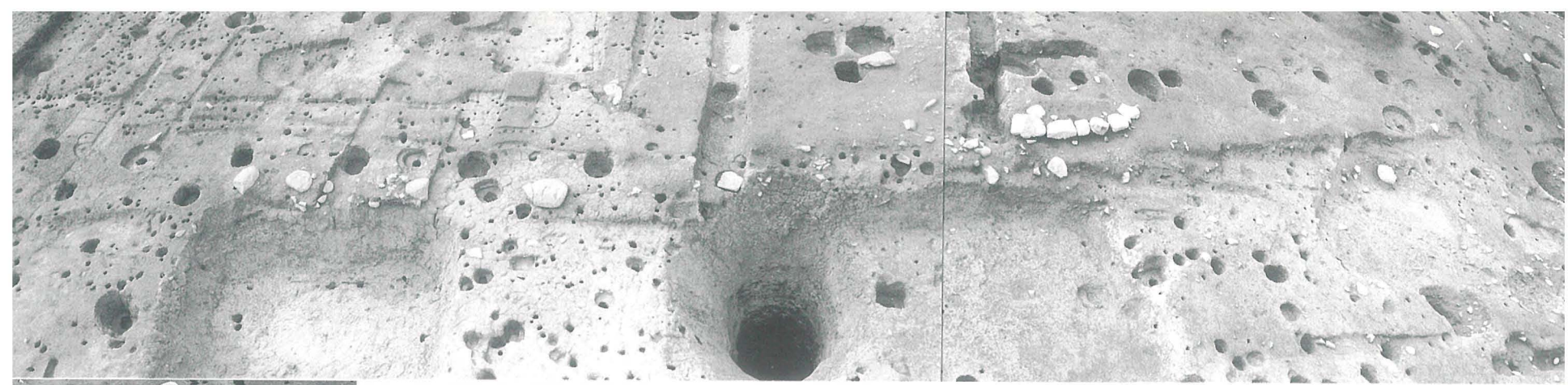




調査区全景 (北東から)



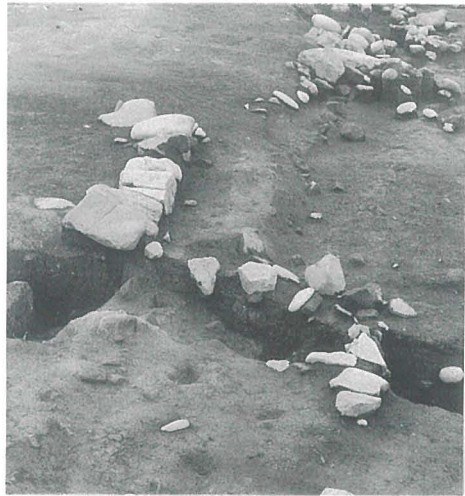
調査区全景
(南西から)



1 段、柱(柵・塀?)礎石列検出状況(北東から)
(手前中央井戸跡、左右は竪穴状土壌)



2 礎石列——柱列は未検出、炭化材・焼土が見られる



3、4 踏石状石積



砂利分布状況（東から）



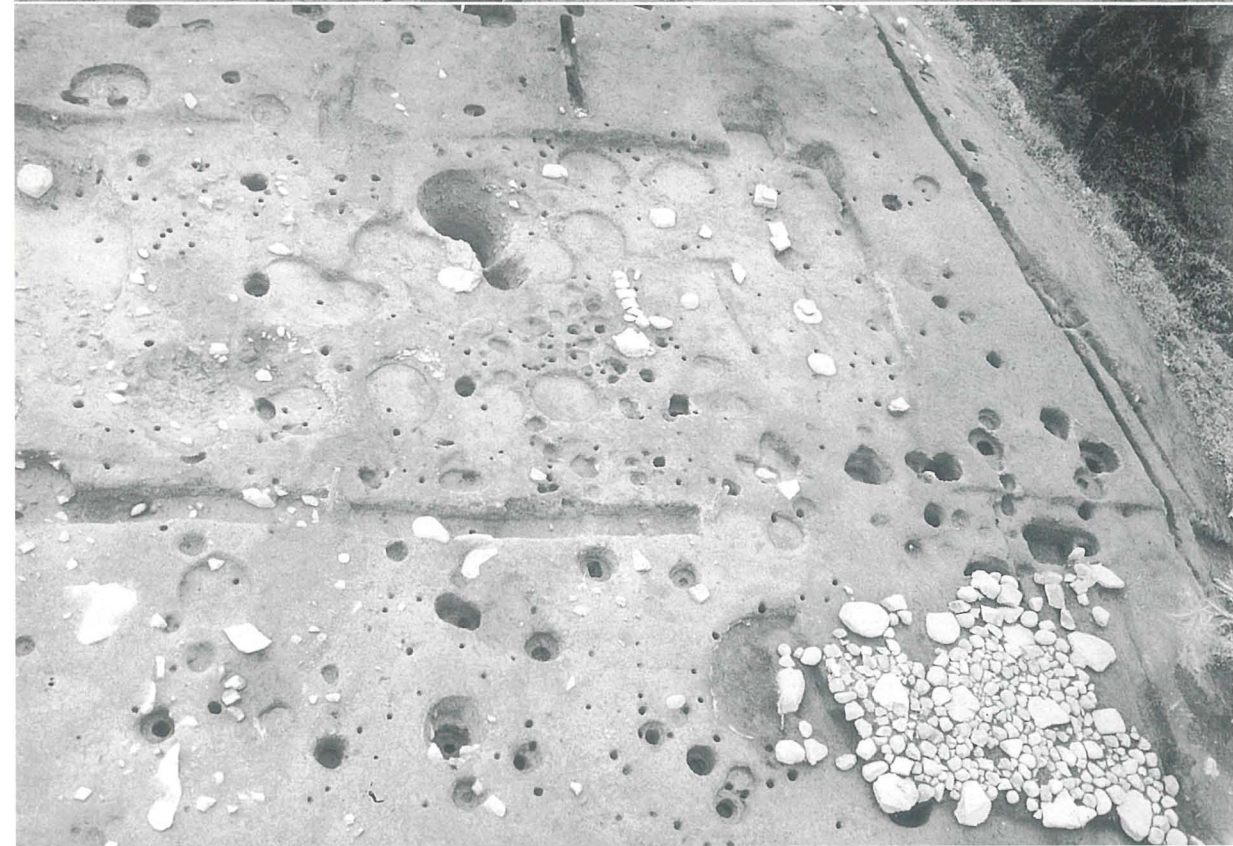
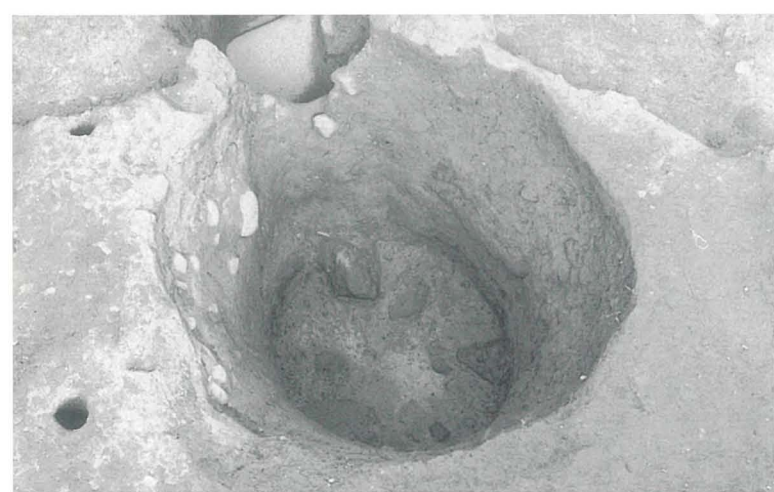
砂利分布状況—右下羽口他（北東から）

鎌出土状況



礎石下断面（右）

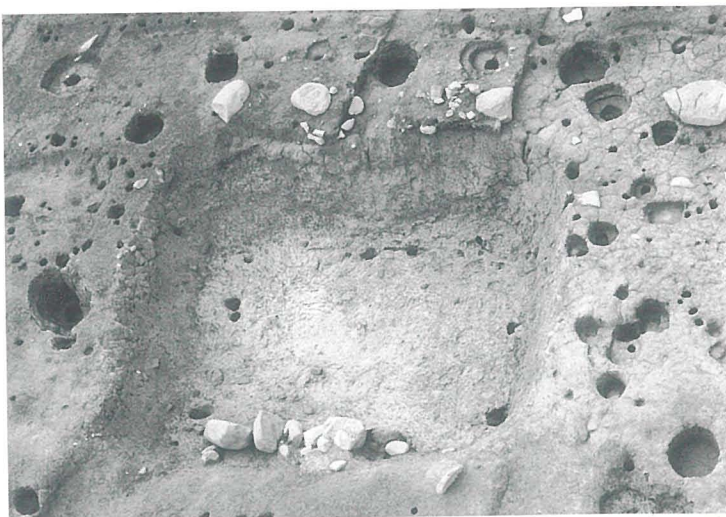
土壙
9





豎穴状土壤土層堆積

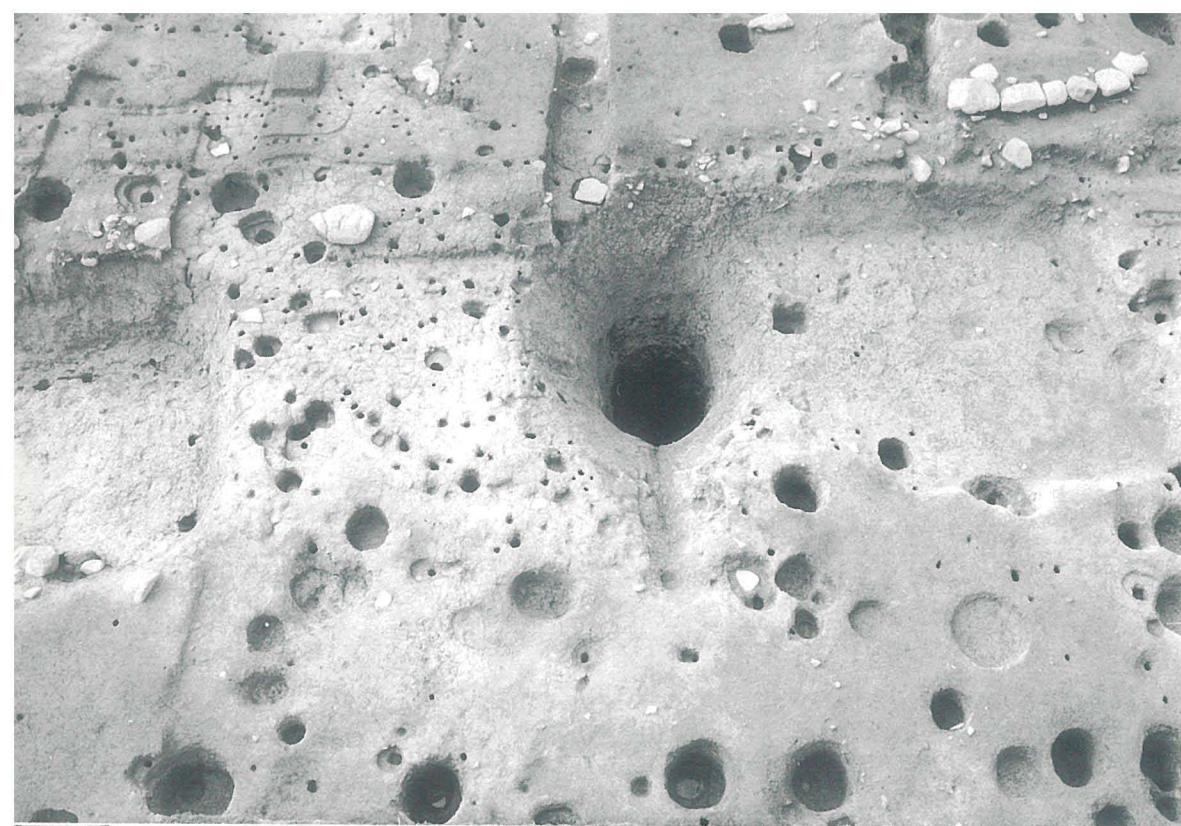
豎穴状土壤



井戸跡上部土層堆積

井戸跡上部集石



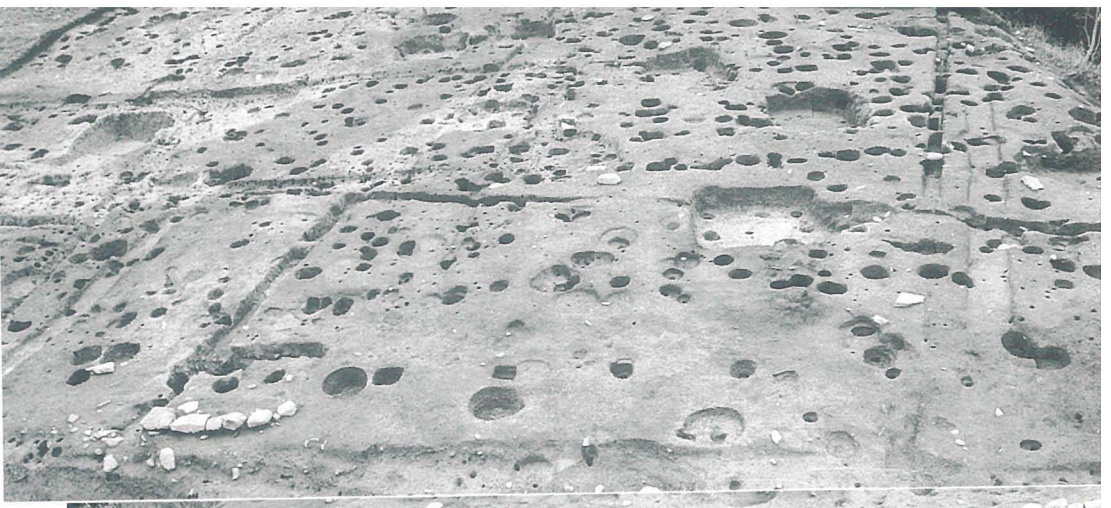


井戸跡
(北西から)



井戸跡

6～9号建物跡(北東から)



1、2号建物跡(南西から)



4、5号建物跡(北東から)

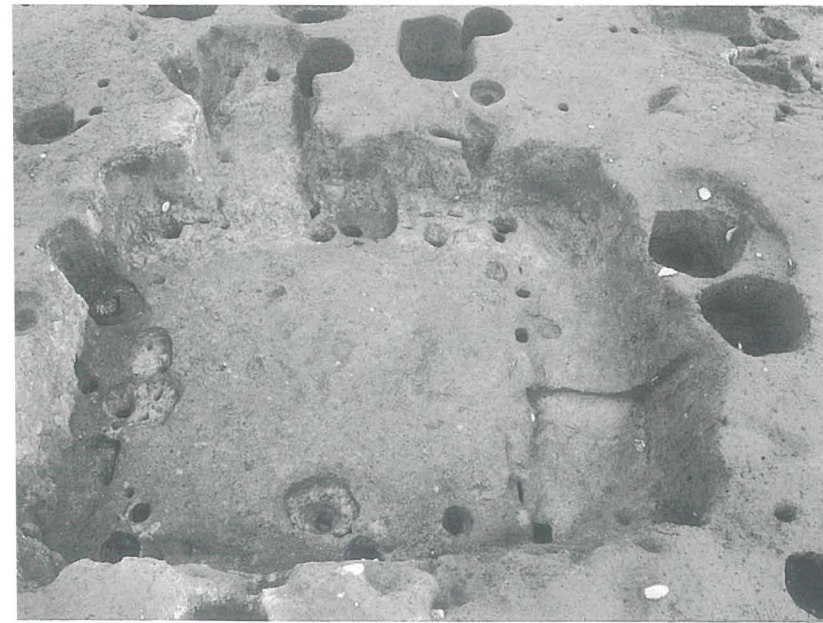


3～6号建物跡(南西から)



8、4、5、3、2、9、1号建物跡

7号建物跡



第45号竖穴建物（南西から）
（北東壁下等に壁板材痕跡がみえる）

出入口部、鎌、銅銭出土状況



壁板材、東角半柱出土状況



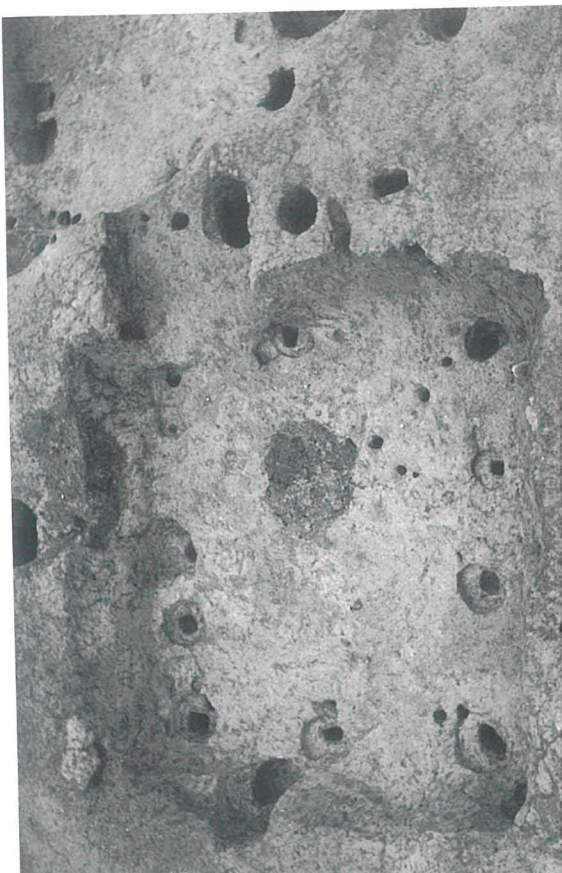
第43号竖穴建物跡



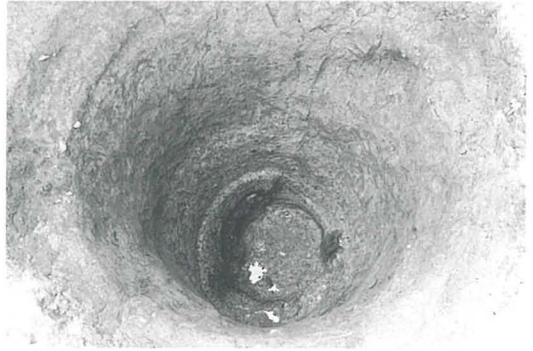
第40号竖穴建物跡



第46号竖穴建物跡

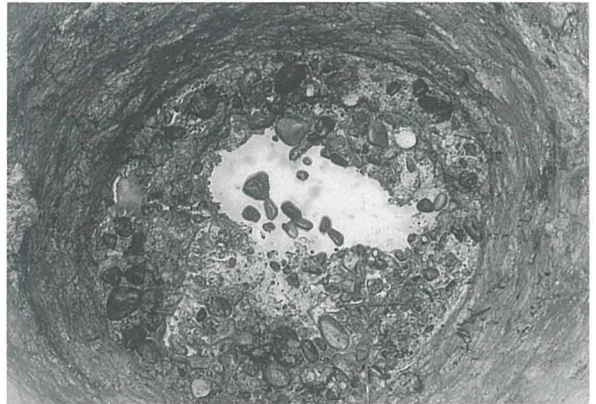


土壌31 (井戸) 曲物井枠



土壌20 遺物—中央右鉄鍋片

土壌31 (井戸) 壙底砂利敷



土壌20 土層堆積—左中央粘土層



土壌17 壙底・土層堆積



土壌7



土壌43 遺物出土状況—右内耳鉄鍋



みぞ6 遺物出土状況 ↑

柵列跡土層 ↓



18L7 みぞ6 みぞ5 土壇24



18L7 みぞ





柵列跡検出状況



柵列跡



柵列跡みぞ上部の石列



柵列跡土層堆積

史跡 上之国勝山館跡 XIV

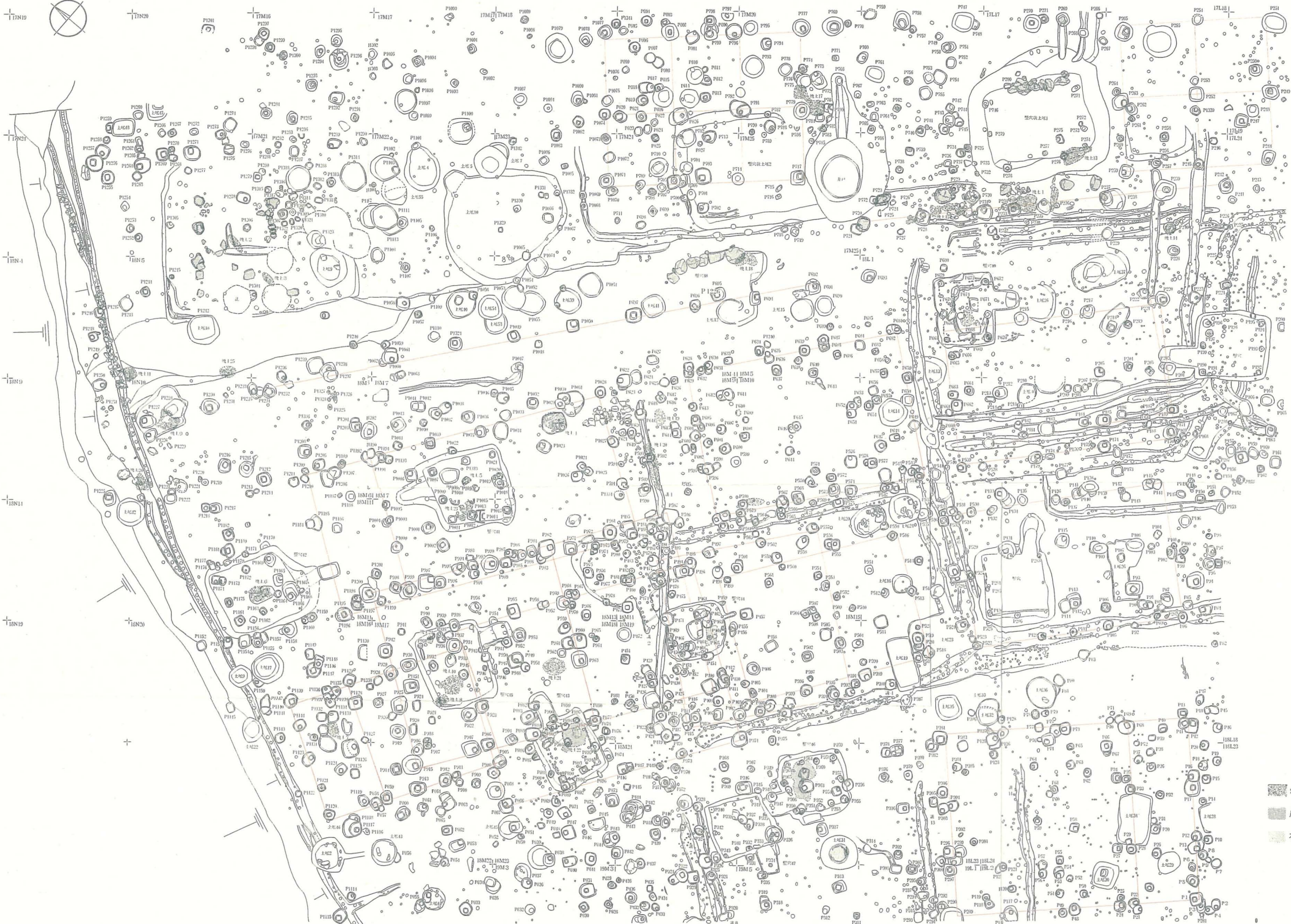
—平成4年度発掘調査環境整備事業概報—

発行 上ノ国町教育委員会
北海道松山郡上ノ国町大留100

印刷 平成5年3月25日

発行 平成5年3月31日

印刷所 ㈱北海道機関紙印刷所



附圖 陶器區遺構配置圖

燒土
炭
石

